

PRINCIPALITY OF
ZEON



MS-06R-1A ZAKU II

PRINCIPALITY OF ZEON S.MATSUNAGA'S CUSTOMIZE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-06R-1A ZAKU Ver.2.0



ジオン公国軍
宇宙空間戦闘用高機動型モビルスーツ
MS-06R-1A シンマツナガ専用ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル



ジオン公国MS開発史

MS開発とコンペティション

ジオン公国が開発したMS(モビルスーツ)は、その誕生以来、激しい生存競争に晒されてきた。その試練を生き延びた機体のみが制式採用と量産の承認を受け、“主力機”の栄誉を授かることができるのである。

U.C.(宇宙世紀)0071年に緒に就いたMSの開発には、常に困難が付きまわっていた。MS-06 ザクⅡの本格的な量産が可能となるまで、少なくとも“巨大な人型機動兵器”としての形を得たU.C.0073年からU.C.0077年の、実に5年に及ぶ歳月を必要としたのである。その上で、U.C.0075年初頭にはジオニック社の“ザク”とツィマツト社の“ツダ”によるコンペティションが行われている。その際、ツダには致命的な欠陥があったこと、一機あたりの製造コストがザクの2倍近くになる事などが明らかとなり、さらにはメーカー自身の規模や工業力、生産能力などのトータルスペックが勘案され、ザクの制式採用と量産化が決定した。公国軍において、この“コンペティション”は、重要な機種選定の際に度々実施されており、ジオン公国製MSの優秀さを下支えしている。MS-05 ザクIは、それを実証するかのように、実際の配備

から間もなく、教導機動大隊をはじめとする実動部隊によって運用されることとなり、さらにはMS-06 ザクⅡへと進化を遂げ、多様なバリエーションを生み出しながら、最終的には3000機を超えて量産される。05から06への機能強化は、生産性や整備性を含むトータルな意味での“MSのスタンダード”の確立を企図したものであった。さらに06F型の基本設計や生産ラインに手を加えることなく機能強化が施されたMS-06Sは、一般的にMS-06Fの規格内におけるハイエンドバリエーションとされている。機動性が大幅に向上したS型であったが、その外観とは裏腹に特殊な内装部品も多く、いわゆる高機動型のR型の機体に移行する寸前の機体だとされることもあり、一説にはR型の開発を見越した部材も試験的に投入されていたとする資料もある。

カスタム機とエースパイロット

工業製品は、量産されることによって運用、生産ノウハウが蓄積され、性能は安定し歩留まりは改善されていく。そういった“安定”した性能は、言い換えれば“平凡”であり、熟練者にとっては“足枷”に過ぎなかった。

“ザク”の更なる高性能化を求める声は、ベテランパイロットを中心に広がっており、技術陣も高性能機の開発を提言していた。首脳陣もまた、その必要性を感じていた。実際には、戦争が長期化の様相を呈し始めたことに対応した“兵器としてのザクの延命化”といった側面もあったようだ。06R型は、もともと06F型の空間戦闘能力の向上を企図して計画されたものだったのである。U.C.0079年4月にグラナダ工場で作成された試作機が実施され、ベースにはF型の最新ロット2機が提供された。背部、腰部、脚部の3点に絞って改造された機体は、エリオット・レム少佐(当時)によって二週間程度の各種テストを経て、直ちに量産されることとなった。ただし、内装品の換装が不可避である事も同時に判明したため、最終的には全面にわたる再設計が施される事となった。この仕様で生産されたのは22機で、実戦テストを兼ねて各方面に送られた。F型から改造された機体は、便宜上MS-06RP ザクⅡ 高機動試作機とされ、再設計された初期生産分の機体はMS-06R-1 ザクⅡ 高機動型(初期生産タイプ)とされている。かくして誕生した06R型は、稼働条件が複雑ではあったものの、極めて高性能でもあったためベテランパイロットから歓迎された。しかし、製造コストが高かったせいもあって調達が非常に困難であった。彼らの間では「連邦軍の戦艦を沈めるよりもRタイプを手に入れる方が難しい」とまで言われていた。その一方で、ロケットエンジンの不良が多く、また燃料積載量が圧倒的に不足しているとの報告が相次いだ。生産が22機で一旦打ち切られたのも、これらの問題点が

影響していたとされている。そして、メインスラスターの換装や補助燃料タンクのカートリッジ化など、同年6月には各種の改善が施されたMS-06R-1A ザクⅡ 高機動型(後期生産タイプ)が生産されることとなり、前線における燃料補給などが簡便なことから多くのパイロットに愛用された。前後してR-1タイプのうち10機ほどがR-1A仕様で改修されている。さらに同年7月には、後に「ザクの皮を被ったゲルググ」と称される06R-2も開発され、“R型ザク”は「ザクのハイエンドモデル」として人々の胸に刻み込まれた。“ザクⅡ 高機動型”は、実際に稼働した期間が短く、生産数も100機未満と少ないにも関わらず大きな戦果をあげている。“真紅の稲妻”ジョニー・ライデンや“ソロモンの白狼”シン・マツナガ、“黒い三連星”のガイア特務小隊など名だたる“エースパイロットの乗機”としても“R型”の機体は広く認知されている。



MS-06R-1A

MS-06R-2

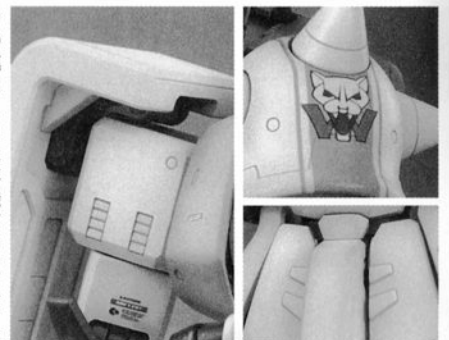
MS-06R-1A ザクⅡ 高機動型 (シン・マツナガ専用機)

戦争の勃発からおよそ一ヶ月後、戦争の長期化に伴う宇宙空間での戦力強化の一環として、R型ザクの開発が立案された。R型は“ザクの汎用性を排除して空間戦闘用に特化”した機体なのである。

元々MSは宇宙空間における斬新な機動兵器としての出自を持つ。R型の開発は、ある意味で先回りであると言える。つまり、空間戦闘用の装備を排除して重力下での稼働に特化したJ型などとは全く逆の発想に基づく機体なのである。いわゆる“高機動型ザク”と呼ばれる“R系”の機体は、ジオン公国軍の主力機であったF型に代わる宇宙用の機体として、本来は更新更新される予定で立案された。当初はバックパック、腰部スカート、脚部などを改造するのみでの対応が企図されていたが、最終的には設計が全面的に見直されることとなった。MS-06R型の初回生産分の22機を各方面で実戦テストに投入した結果を受け、改良型のR-1Aが作られることとなった。初期のいくつかの不具合を修正したMS-06R-1Aの生産は、グラナダ工廠や、ジオン本国などの各施設で行われた。しかし、生産工程が複雑であったため、それぞれの生産ラインや時期によって調達可能な部材や加工精度にばらつきが生じ、機体ごとの性能にもムラが生じてしまっていた。例えば、R-1型とR-1A型の仕様の違いは、後腰部のカートリッジタンクの有無だとされているが、そのタンク自体、円筒形の物の他、より容量の大きな直方体の物も規格化されていた、というような物だ。また、ショルダーアーマーの形状なども、試作機の仕様のままの物や、F型の外装を流用した機体などもあった。結局MS-06R-1Aの量産は78機あまりがロールアウトした時点で終了した。本格的な量産に至らなかった理由はいくつか挙げられているが、R型の量産を通じて公国軍はMS生産工程のQC(クオリティ・コントロール)や各種の規格を見直す必要がある事を痛感するとともに、ザクそのものへの執着をようやく断ち切ることができたと言う側面もあったのである。



ドズル・ザビ中将の宇宙攻撃軍麾下にあって勇名を馳せたシン・マツナガ大尉は、その白い機体と主に“ソロモンの白狼”の名でジオン市民や将兵から絶大な憧憬と信頼を寄せられていた。開戦以前からMSパイロットとして多くの作戦に従事していた彼は、



ルウム戦役までの期間にマゼラン級1隻とサラミス級5隻を沈めており、戦時任官で中尉に昇進した際、受領した06Fの頭部とスパイクアーマーを白く塗装し、以来“白狼”として知られることとなる。彼が06R-1Aを拝領した時期は詳らかではないが、一年戦争時に搭乗していた最後の機体が同機である事はほぼ確定している。ただし、地球連邦艦隊がソロモン攻略戦を敢行したまさにその時、マツナガ大尉は本国に召還されていた。大尉自身もソロモンへの帰還を切望していたが、連邦軍の進攻が予想外に迅速であったため、ソロモン陥落の報をサイド3で聞かされたこととなった。ドズル中将の戦死を知った彼は男泣きに泣いたと伝えられている。残された愛機、白く彩られたMS-06R-1Aは、主の帰りを待ちながらソロモンの業火に焼かれて壊れたとされている。なお、資料の中には大尉の機体を1型と記すものもあり、実際、現存する記録映像には1型の特徴が残されたままのものも散見され、広報用の代替機か、あるいは元々が改修型の1A型であったとする見解も存在する。

MS開発系譜 一公国軍、ザクへの執着

ザクの適応能力は、既存の兵器体系をことごとく覆していった。そして、任務や用途に適応したバリエーションは、多様なアプローチによって、あらゆる環境に適応してみせた。生産設備や基礎的なパーツを流用したままで、かくも多様な用途に投入できる機体を開発せしめた事実、開発企業にとって破格の実績であると言えた。しかし、ザクによるこれらの成功体験そのものが、次世代機への移行を遅らせる遠因となっていたことも否定できない。それは、このR型の開発経緯そのものによって検証されているということもできるのである。



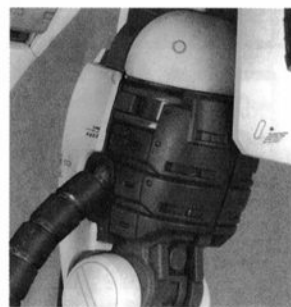
スペック・武装

R型の最大の特徴は、専用ランドセルの実装と脚部の改装だが、それらはただ単にユニットを換装しただけのものではなかった。特にランドセルや脚部スラスターには大容量のプロペラントタンクが実装され、後にはそれぞれカートリッジ化され、運用面でも十分に配慮されたものであった。また、設計を全面的に見直したこともあり、ジェネレーターを始めとする機体内のエネルギー経路は大出力化され、各部ターミナルも大容量化されている。実用には至らなかったものの、R-2型に至っては、外部コンデンサーの開発が間に合えば、ビーム兵器の運用さえ不可能ではなかっただろうとする報告も存在しているのである。無論、一年戦争の期間内にビーム兵器を実装できなかった事実は否定できない。とはいえ、06S型を遙かに上回る機動性と、それを可能とする機体強度の獲得を“ザクの仕様を維持したまま”で達成したのもまた事実であり、逆に言えば、この時期の試行錯誤が無ければ“ゲルグ”のような次世代機を生み出すのは不可能であっただろう事は想像に難くない。実際、ドム(リック・ドム)用に開発

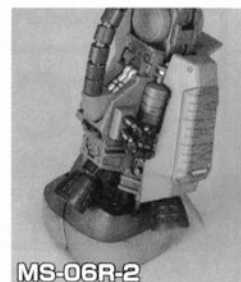
その他の高機動型

R型の特徴は背部ランドセルの換装のみならず、上半身の構造自体を見直す事でジェネレーター出力をも向上させている。ランドセルユニットはプロペラントタンクと大出力スラスターによって構成されており、構造全体を複合スラストユニットとしては、高速戦闘に対応した補助的なセンサー類も組み込まれている。脚部には歩行脚として最低限の機能のみ残り、大腿部には大容量のタンクを内蔵、下腿部には大型のパーニアズルをそれぞれ三基とプロペラントタンクを内蔵し、脚部全体を巨大なベクター・ノズルとして機能させている。ランドセルと両脚は、それぞれが既存のF型1機分に相当する推力を持つとされ、それらを制御するため、各部の関節やアクチュエーターの強化に加え、フレーム強度や機体構造も抜本的に見直されている。R型の改修点はコクピットユニットの構造や配置にまで及び、最終的には改装やオプション装備と言

されたジャイアント・バズを容易にとり回すのみならず、そのままの高機動戦闘を可能とするスペックはリック・ドムを上回っていたのである。ほかにも、既存のザク・マシンガンやヒート・ホークにしても、機体性能が向上した事でさらなる有効性を獲得していたことはいうまでもない。それらを取り扱う機体本体の機動性や運動性の向上は、それぞれの武装の威力を向上させ、高出力化に対応した発熱デバイスを装備する一部のヒート・ホークの威力は、破砕力としてはビーム・サーベルを上回っていたとさえ言われている。ただし、これらの評価は、あくまで“ザク”という限定されたカテゴリーに於けるものであることは言うまでもない。



たレベルを逸脱していると言わざるを得ない。系譜からすれば、06RPから06R-2に至る機体群は、便宜的に06R-1や06R-1Aに分類されているものの、その仕様を厳密に特定することは非常に困難であると言わざるを得ないのが実情である。



⚠ 注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

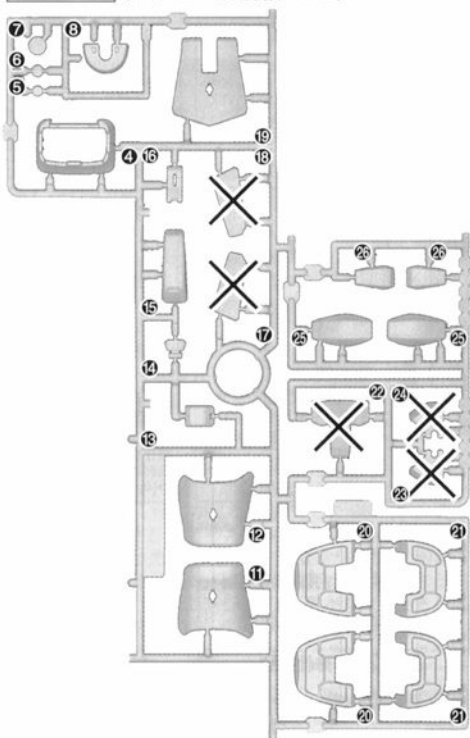
〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

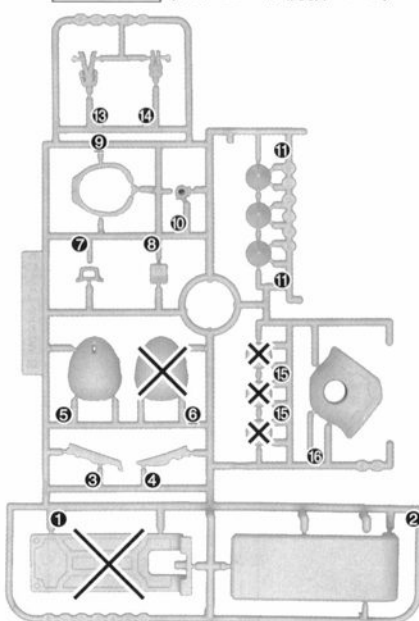
パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

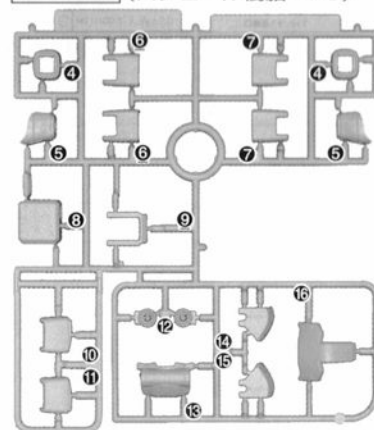
Aパーツ (スチロール樹脂: PS)



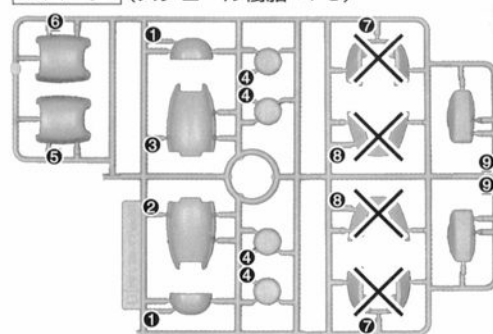
Bパーツ (スチロール樹脂: PS)



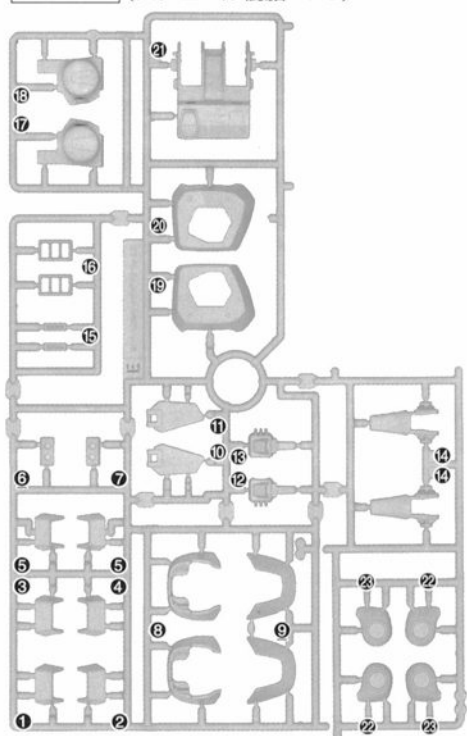
Cパーツ (スチロール樹脂: PS)



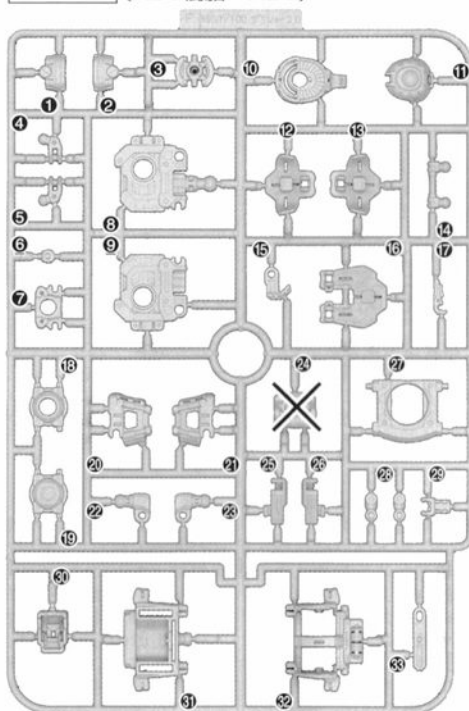
Dパーツ (スチロール樹脂: PS)



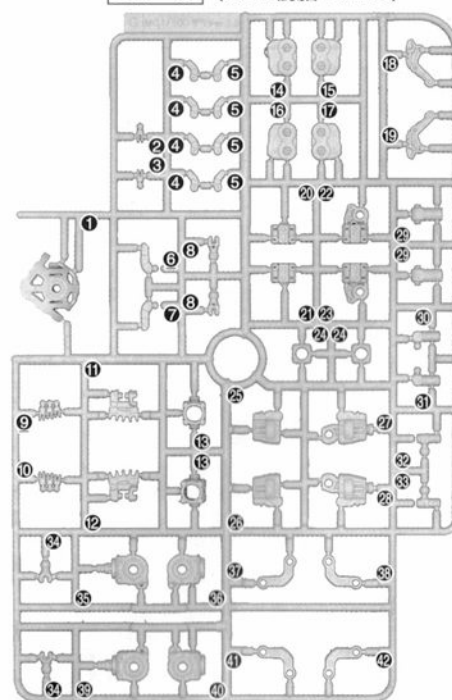
Eパーツ (スチロール樹脂: PS)



Fパーツ (ABS樹脂: ABS)



Gパーツ (ABS樹脂: ABS)



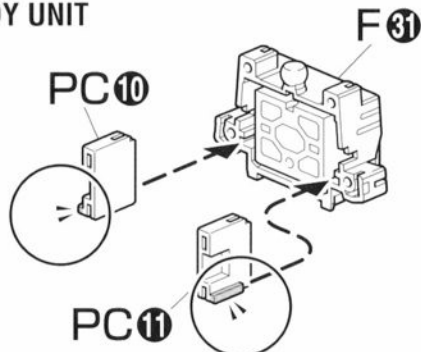
組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

※組み立て図中にVのついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。

1 [胸部の組立]

<1> BODY UNIT



ガンダムデカールの貼りかた

①ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

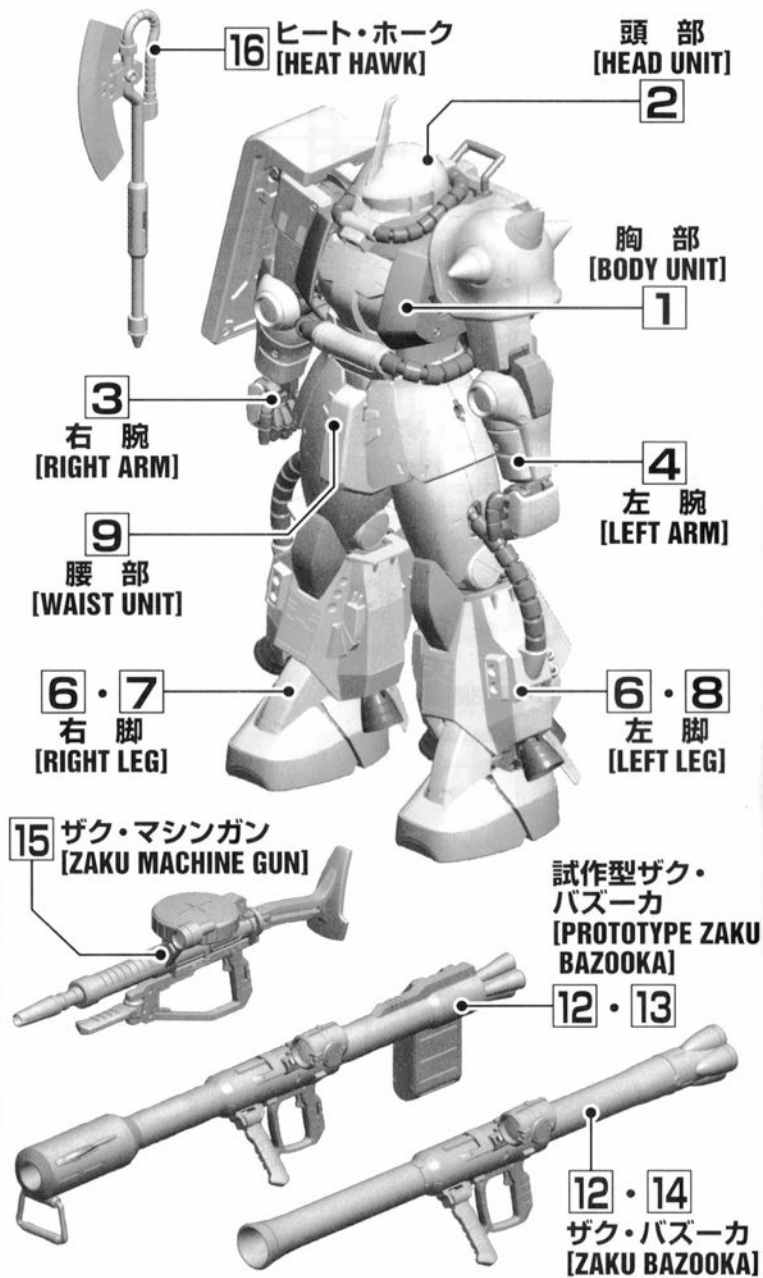


②保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、すれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

③シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

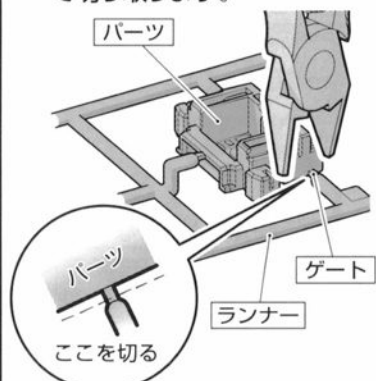
※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう

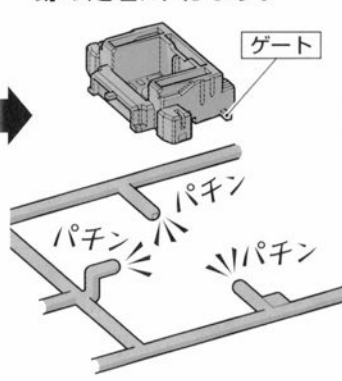


パーツの切り取りかた

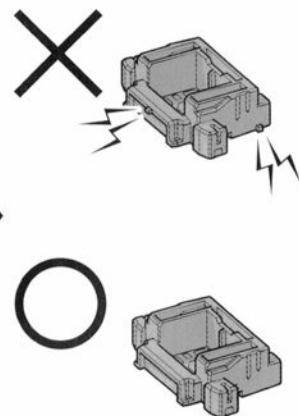
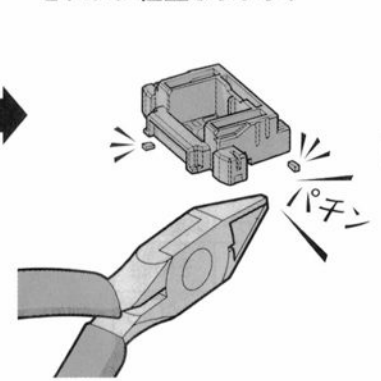
①まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。



②パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲートの処理に入ります。



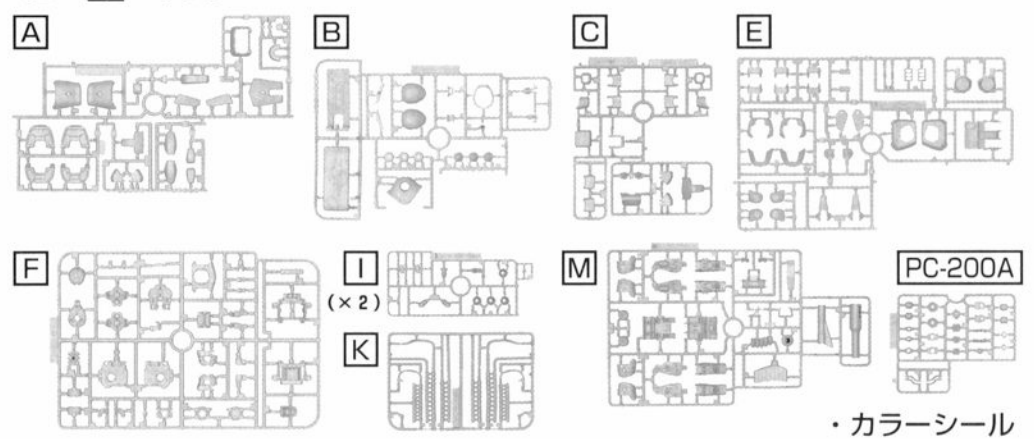
③ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。



1 BODY UNIT

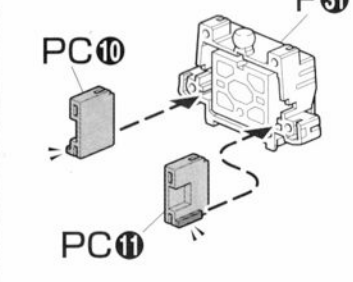


・組立1で使用するパーツ

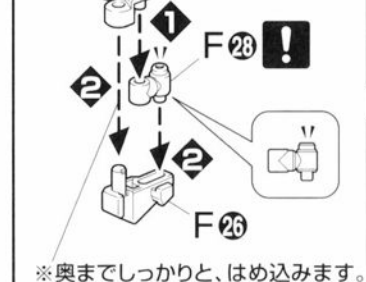


1 (胸部の組立)

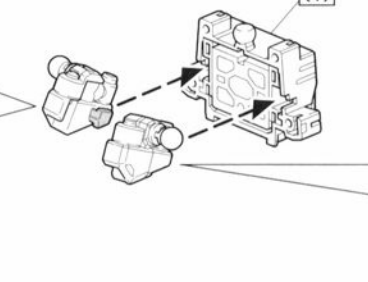
(1) BODY UNIT



(2)



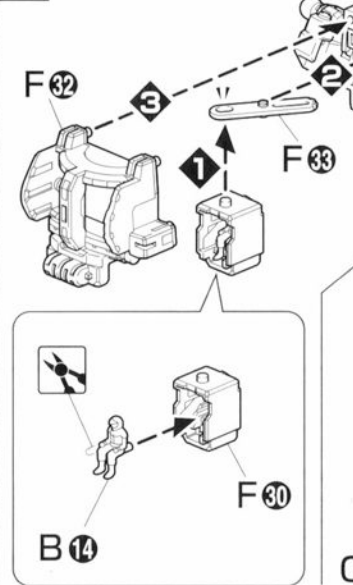
(1)



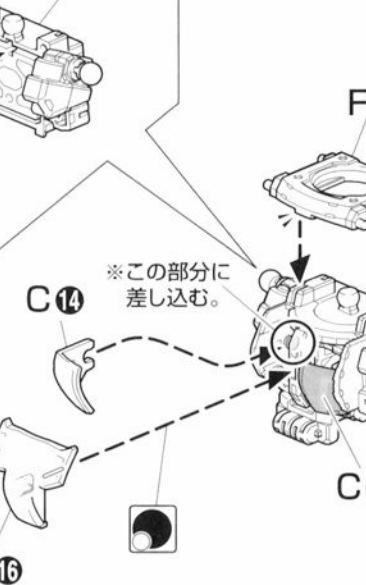
(2)



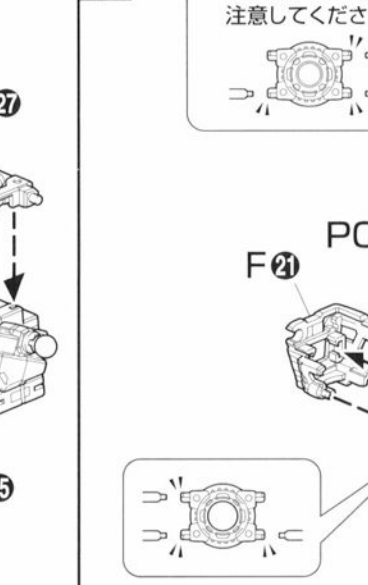
(3)



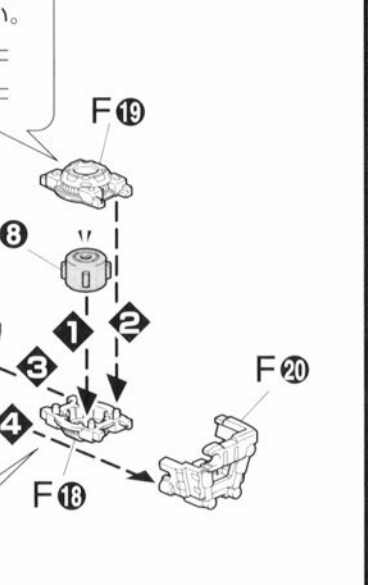
(2)



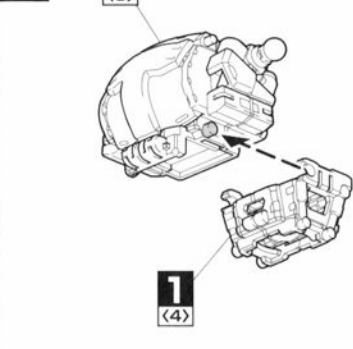
(4)



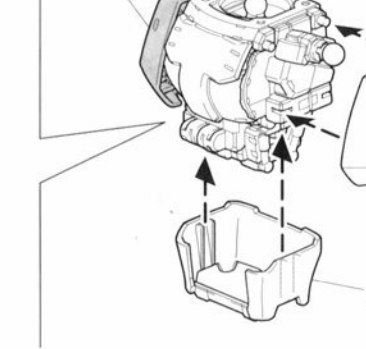
(1)



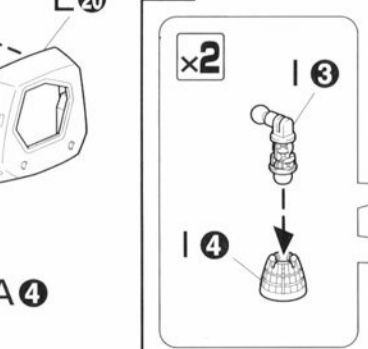
(5)



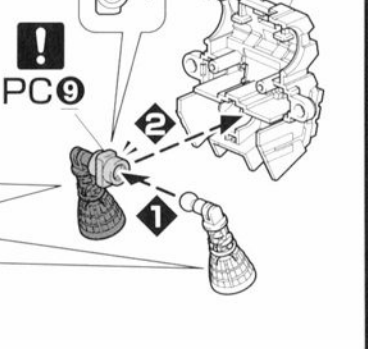
(3)

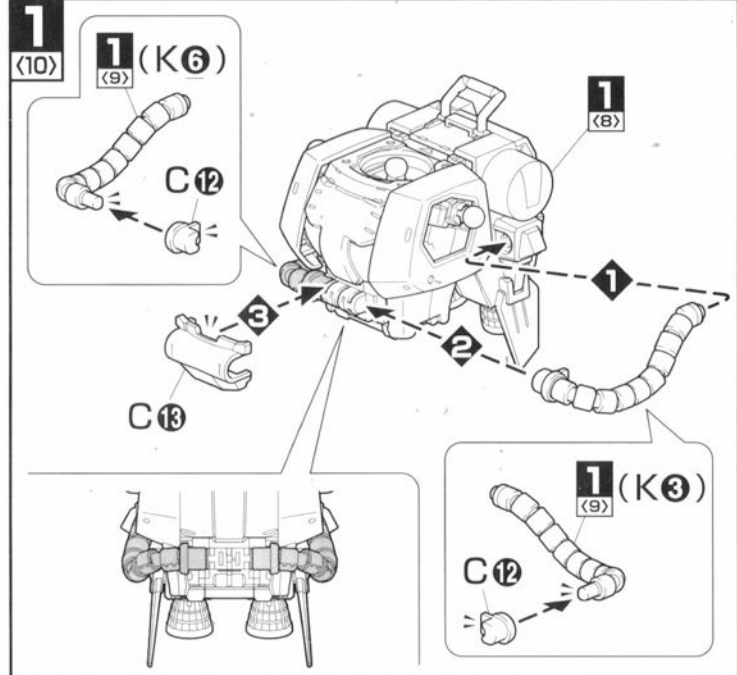
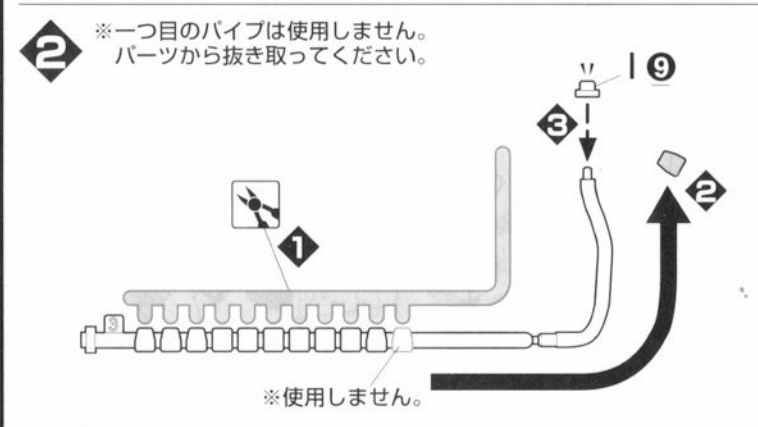
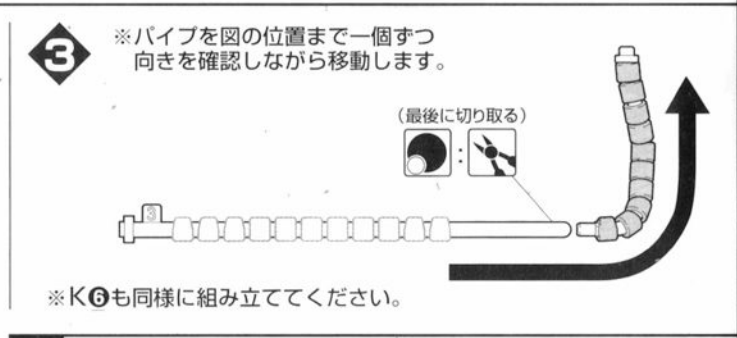
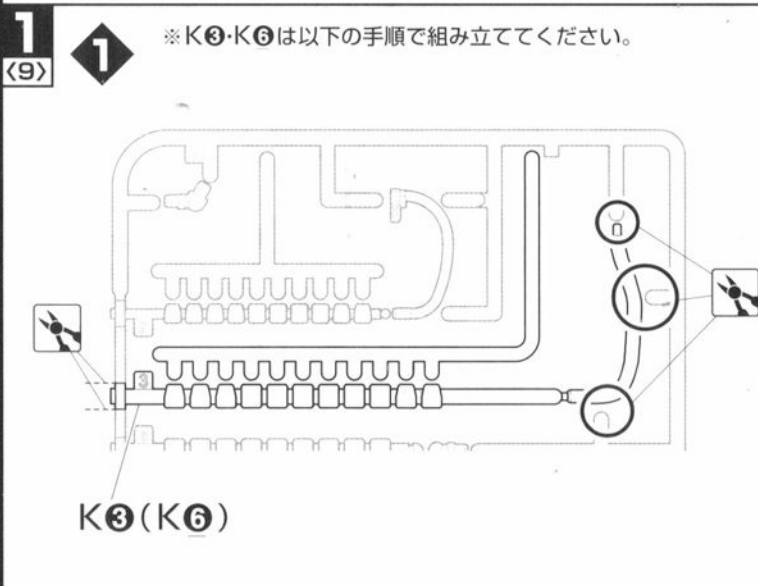
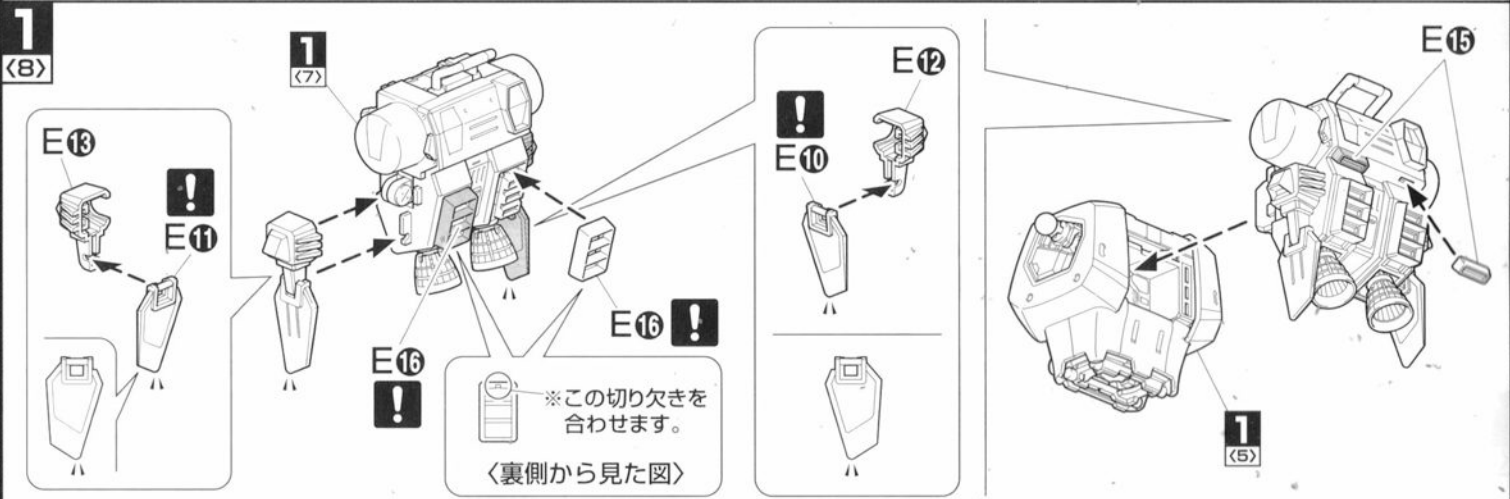
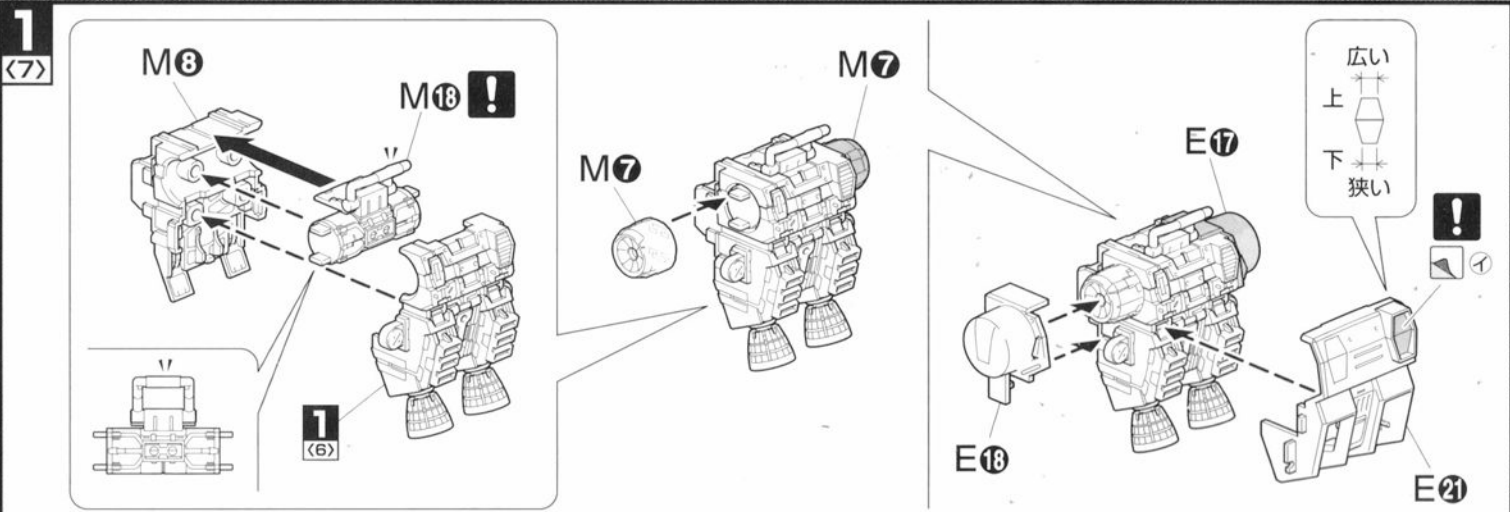


(6)

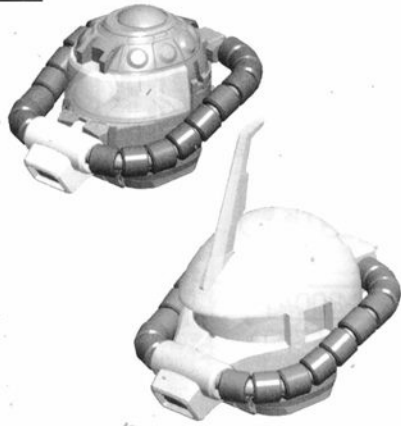


(1)

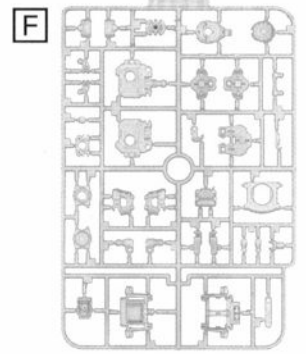
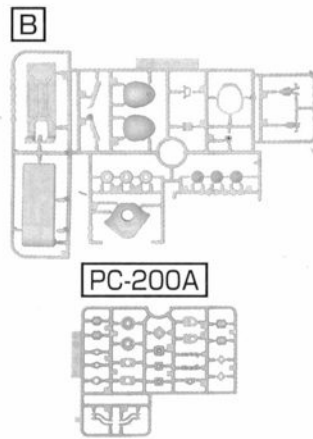
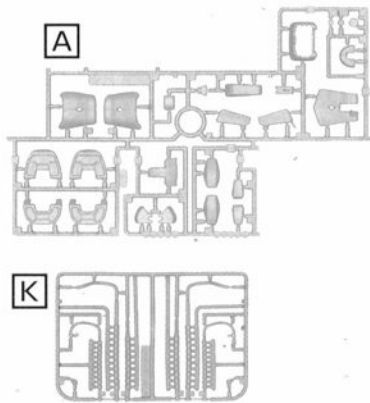




2 HEAD UNIT

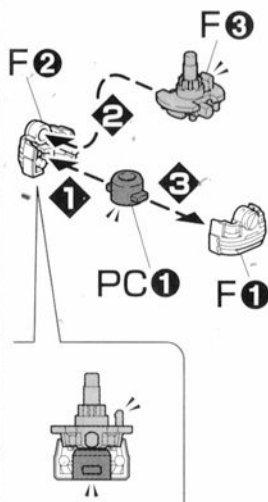


・組立2で使用するパーツ

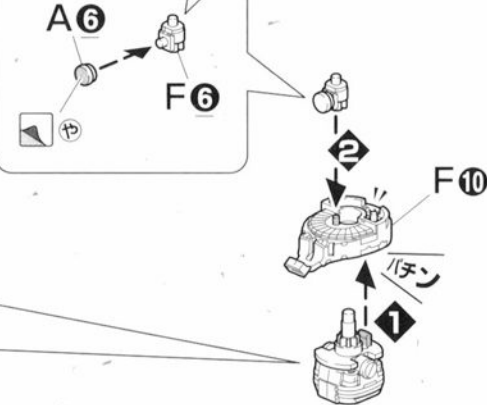


・マーキングシール

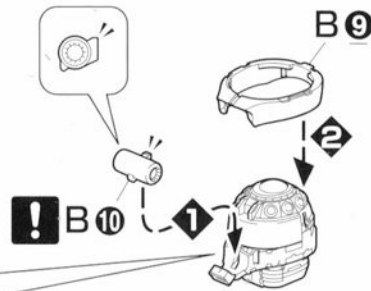
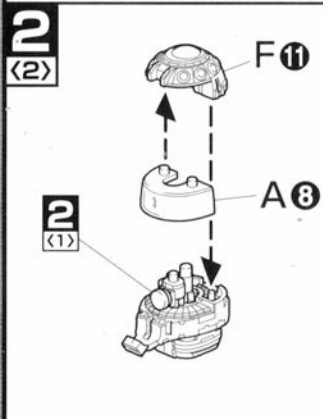
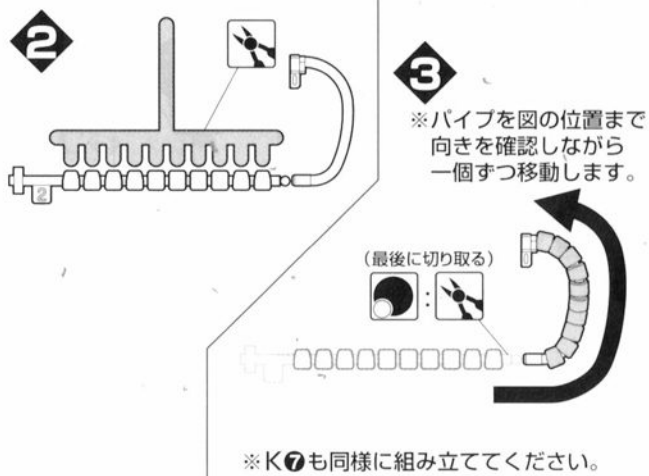
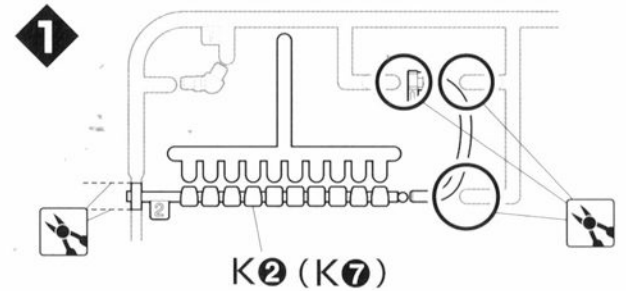
2 (頭部の組立) (1) HEAD UNIT



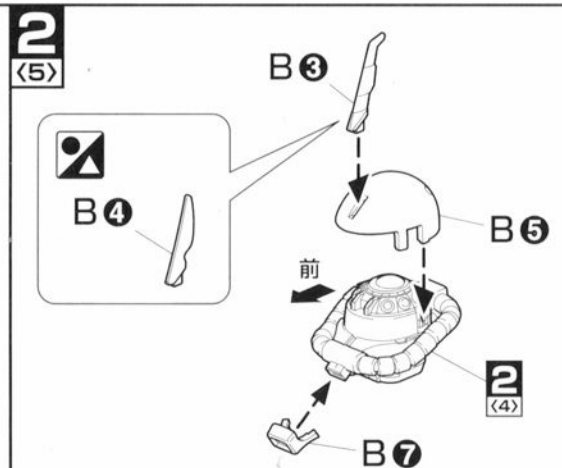
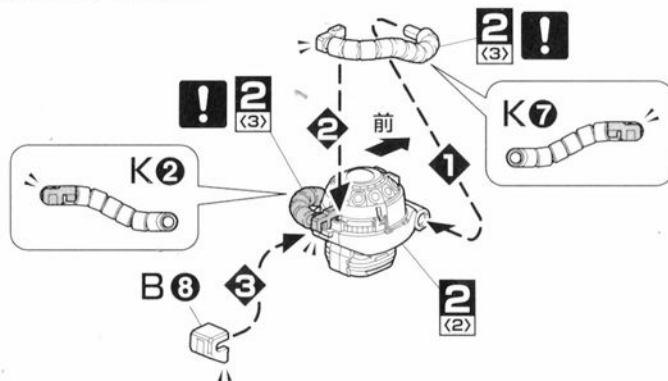
※F6は、ピンを切り取らないように注意してください。



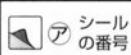
2 (3) ※K2・K7は以下の手順で組み立ててください。



2 (4) ※左右に注意して組み立ててください。



※組立図中の記号説明



シールの番号



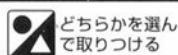
後から組み立てる



！ 向きに注意して組み立てる

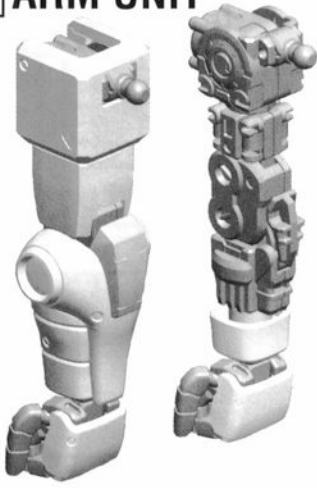


切り取る部分

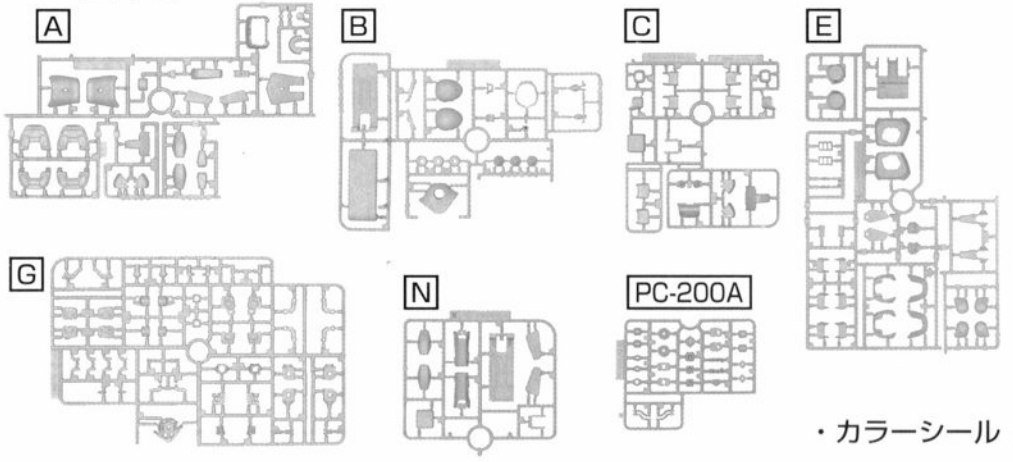


どちらかを選んで取りつける

3 4 ARM UNIT

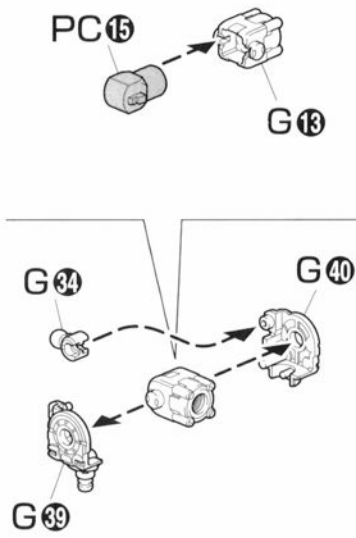


・組立3・4で使用するパーツ

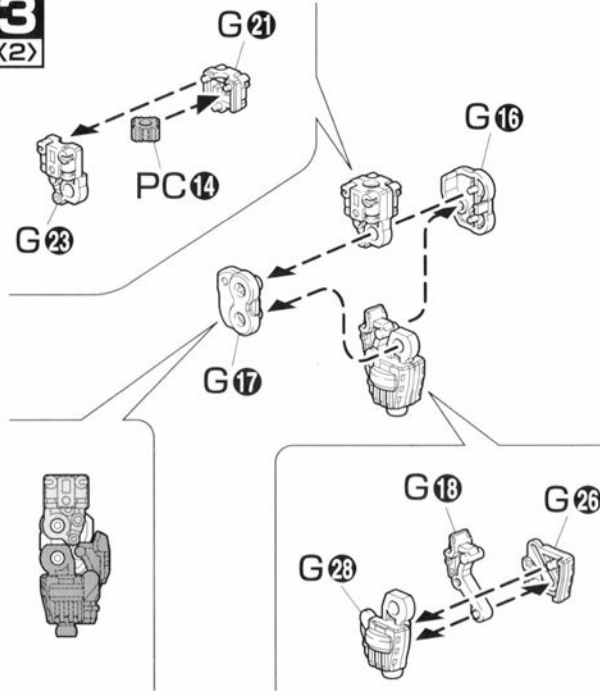


3 (右腕の組立)

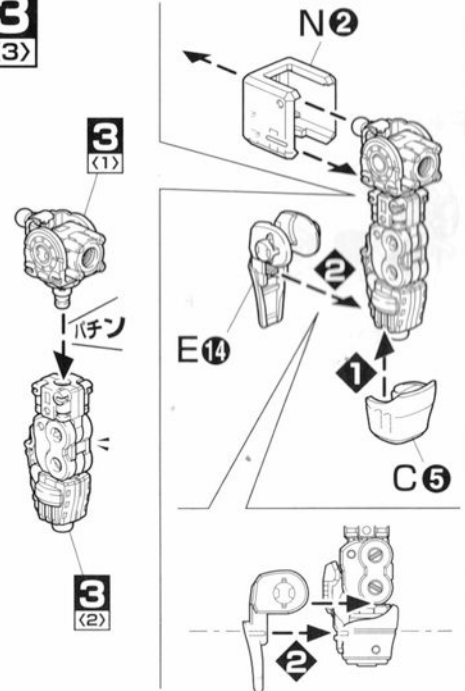
(1) RIGHT ARM



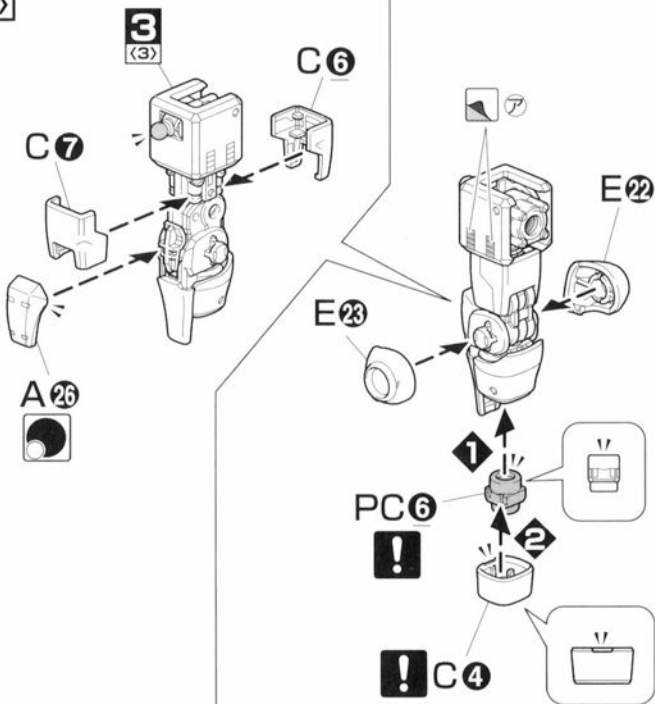
3 (2)



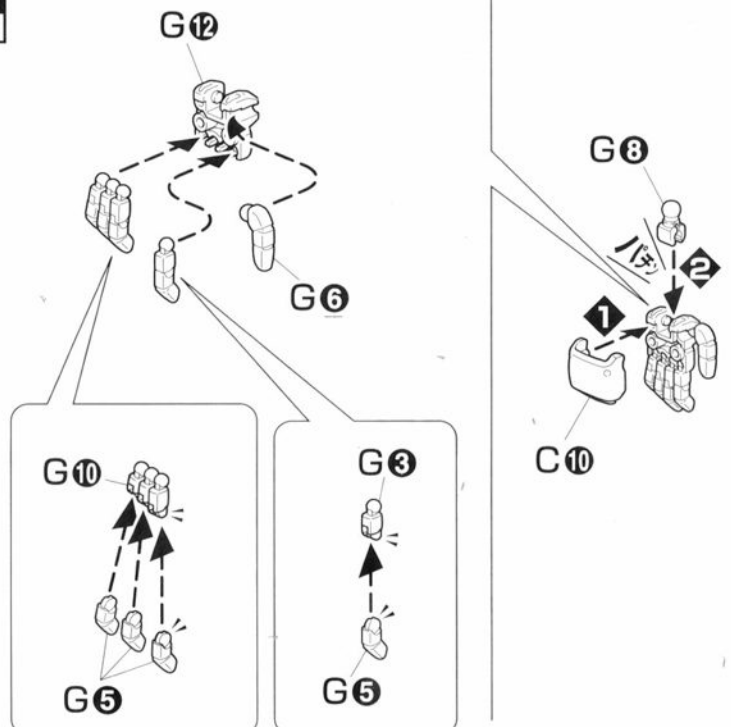
3 (3)

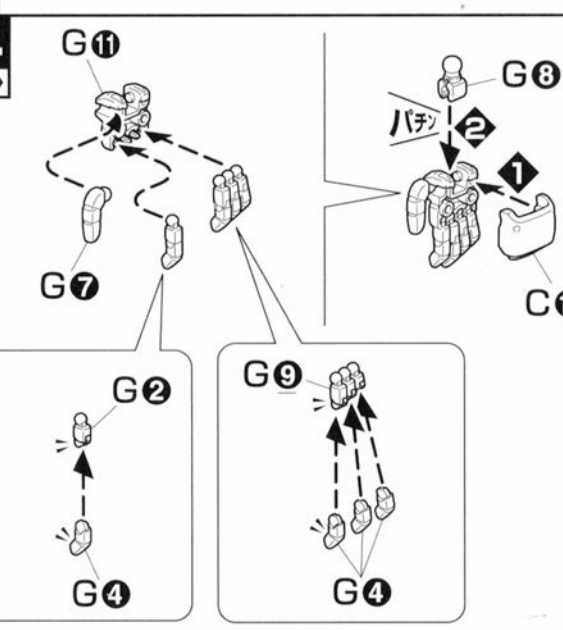
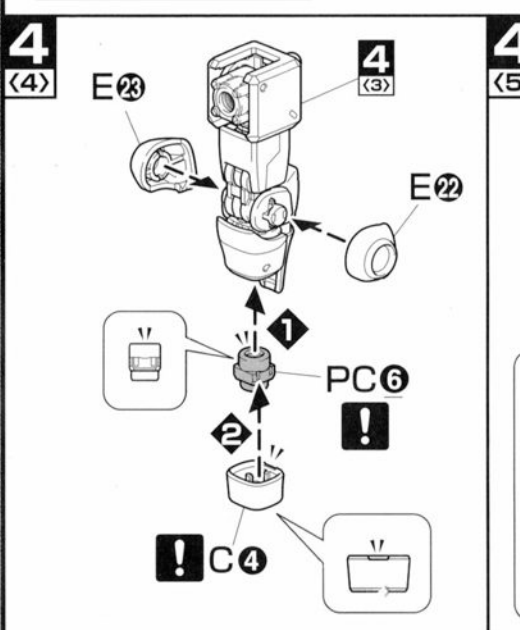
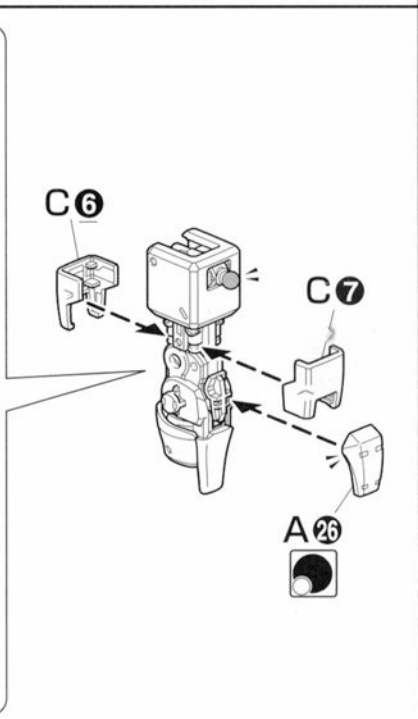
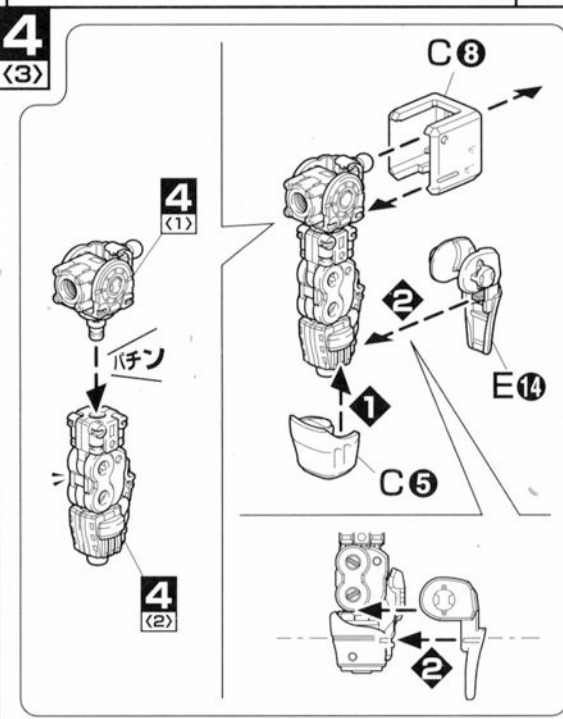
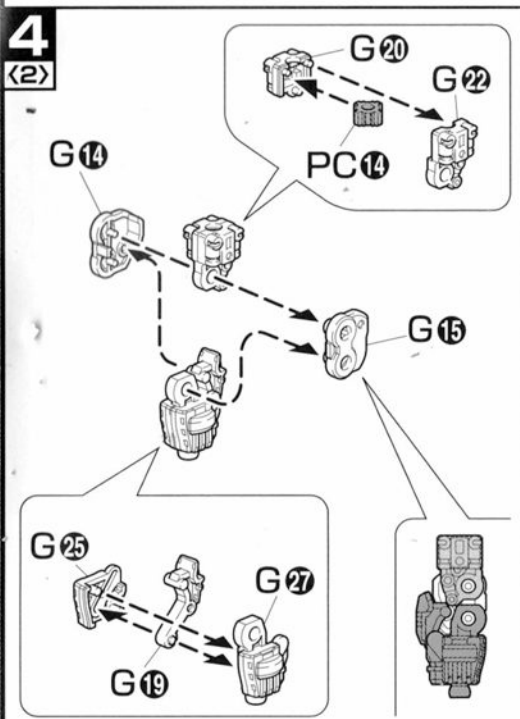
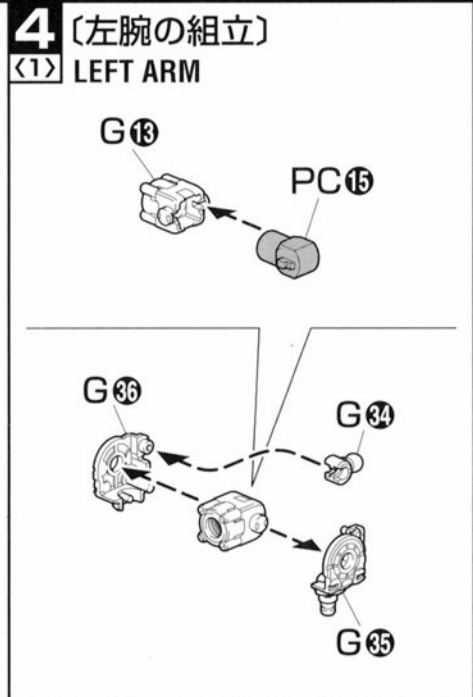
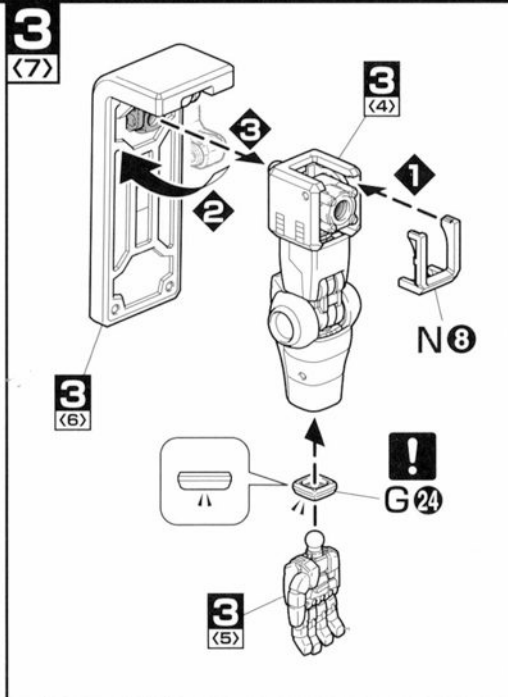
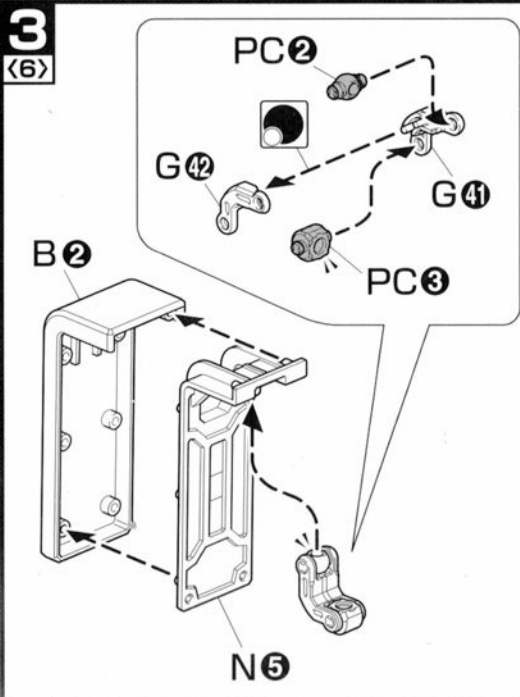


3 (4)



3 (5)





※組立図中の記号説明

! 向きに注意して組み立てる

後から組み立てる

MS Tracks in U.C.0079 (一年戦争の軌跡)

ソロモンの白狼

「ソロモンの白狼」と称されるシン・マツナガ大尉は、U.C.0055年、サイド3でヤシマ家と並ぶ東洋系の名家マツナガ家の長男として生まれた。一族のうち軍属となったのは彼ひとりだけだと言われている。開戦前にパイロット志願兵としてジオン国防軍に入営し、一等兵として通常型のMS-06Cを駆った。近接戦闘を得意とし、ドズル麾下の宇宙攻撃軍に配属される頃には既に頭角をあらわしていた。続くルウム戦役において直属上官の戦死に伴う戦場任官で中尉に昇進し、その時点での戦果がマゼラン級戦艦1隻、サラミス級巡洋艦5隻という錚々たるものであったため、06Fを与えられると共にパーソナルカラー及びエンブレムの付帯を許される。中尉となったマツナガは、規定に従って士官学校に入学するが、これは手続き上のものであり、形式的に出撃した後はすぐ大尉に昇進している。その出自に似合わぬ豪放かつ清冽な気性はドズル・ザビ中将の目に止まり、その後の戦場視察の折には必ずマツナガ大尉の白い機体が護衛を務めたと言われている。ドズル中将の信望厚い「懐刀」としてのマツナガ大尉のエピソードは多いが、中でもルウム戦役時の活躍や、ドズルの前線視察行における直衛任務は様々な形で喧伝された。彼の名とともに語られる事が多い白い06R-1Aを受領した時期に関しては、機体の最終仕様と同様に情報が錯綜しているものの、終戦後、サイド3に帰国して後は、祖国の復興や「後始末」に尽力したとされている。また、長期間にわたる本国への不可解な召還やドズルへの忠節譚などが様々な解釈、憶測を呼んでおり、U.C.0090年代に至ってもなお、AE製秘密兵器での極秘任務などがまことしやかに流布されている。



※写真はイメージです。

PAINTING (塗装)

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

MS-06R-1A シン・マツナガ専用ザク Ver.2.0 指定色

- 腕、脚などの塗装色
ホワイト (95%) + セールカラー (5%)
+ イエロー (少量%)
- 胸などの塗装色
ホワイト (50%) + ニュートラルグレー (40%)
+ ダークアース (10%)

- 右肩インターク部
イエロー (45%) + ホワイト (35%)
+ オレンジ (20%)

- 足内部メカ、武器などの塗装色
ミッドナイトブルー (75%) + ホワイト (15%)
+ ミディアムブルー (10%)

- パーニアなどの塗装色
ミッドナイトブルー (100%)

- パーニア内側などの塗装色
モンザレッド (100%)

- ヒート・ホークのパイプ部の塗装色
ニュートラルグレー (90%)
+ ブラック (10%)

- ヒート・ホーク本体の塗装色
パープル (55%) + ホワイト (30%)
+ ニュートラルグレー (15%)

- ヒート・ホークのブレードの塗装色
イエロー (60%) + ホワイト (30%)
+ オレンジ (10%)

- モノアイなどの塗装色
蛍光ピンク (100%)

●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

シン・マツナガ

- ヘルメットなどの塗装色
セールカラー (80%)
+ ホワイト (20%)
- ヘルメット額部塗装色
ダークアース (70%)
+ ホワイト (30%)
- バイザーの塗装色
スカイブルー (100%)
- スーツの塗装色
ホワイト (55%) + ブラック (10%)
+ イエローグリーン (35%)
- ランドセルの塗装色
ミディアムブルー (100%)



ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカ-スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



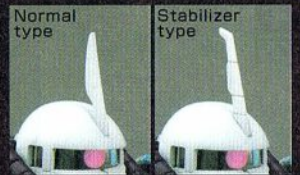
[before]

[after]

MS-06R-1A ZAKU II MECHANISM

MS-06R-1AはMS-09Rに次期主力機の座を奪われはしたが、初期生産分の22機を含め78機が生産されている。写真はシン・マツナガ大尉専用機である。

▶指揮官機は頭部にブレードアンテナが装備されており、通信系のモジュールも強化されている。



▶F型から発展したR型のスラスタユニットは、ノズルの大型化やプロペラント・タンクの容量拡大がなされている。



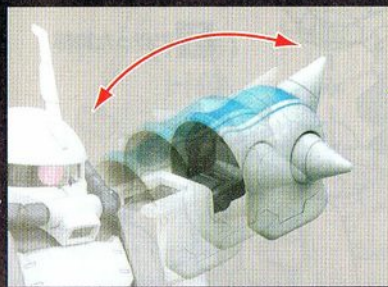
▶アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるように設計されている。



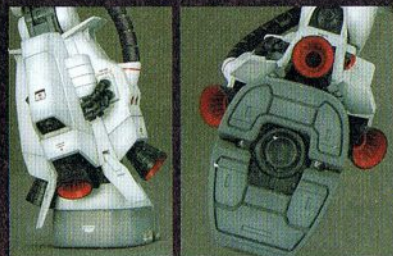
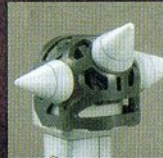
▶大腿部は大容量プロペラント・タンクが内装され大型化が図られている。



▶脚部背面の補助カートリッジは、他のR型への使用も想定された構造になっている。

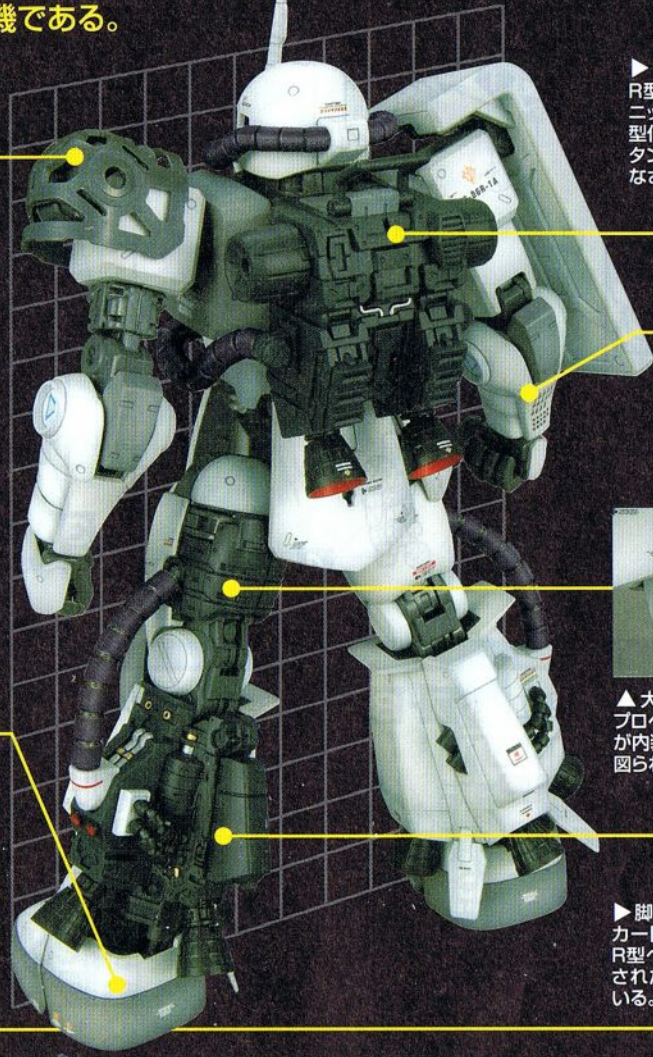


▶▲ショルダーアーマーは激突時の衝撃を軽減するためにインナーフレームを内蔵。また、サポートアームが可動し、交換時やシールドとの換装時には容易な着脱が可能である。



▶▲空間戦闘能力を向上させるため、バーニアスラスタの性能向上、大口径バーニアノズルとの換装などが行われている。

MODEL NUMBER : MS-06R-1A
 Height : 17.5m
 Weight : 56.8t
 Generator output : 1,012kw
 Armor materials : super hard steel alloy



Weapons

MS-06R-1A ZAKU II Armament



ZAKU Machine Gun



Prototype ZAKU Bazooka

ZAKU Bazooka

Heat Hawk

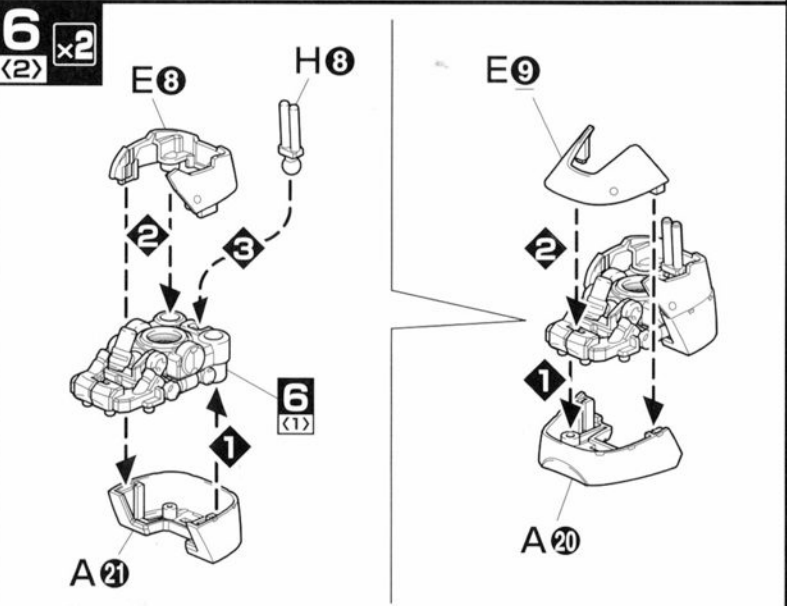
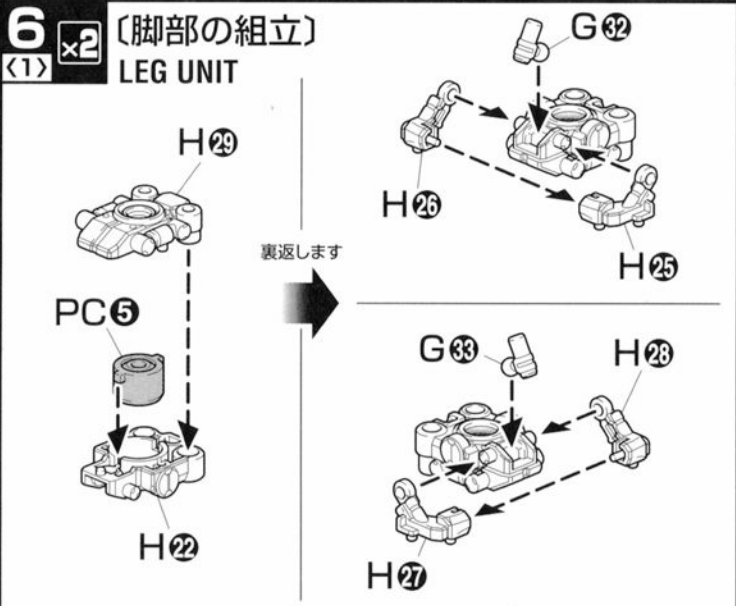
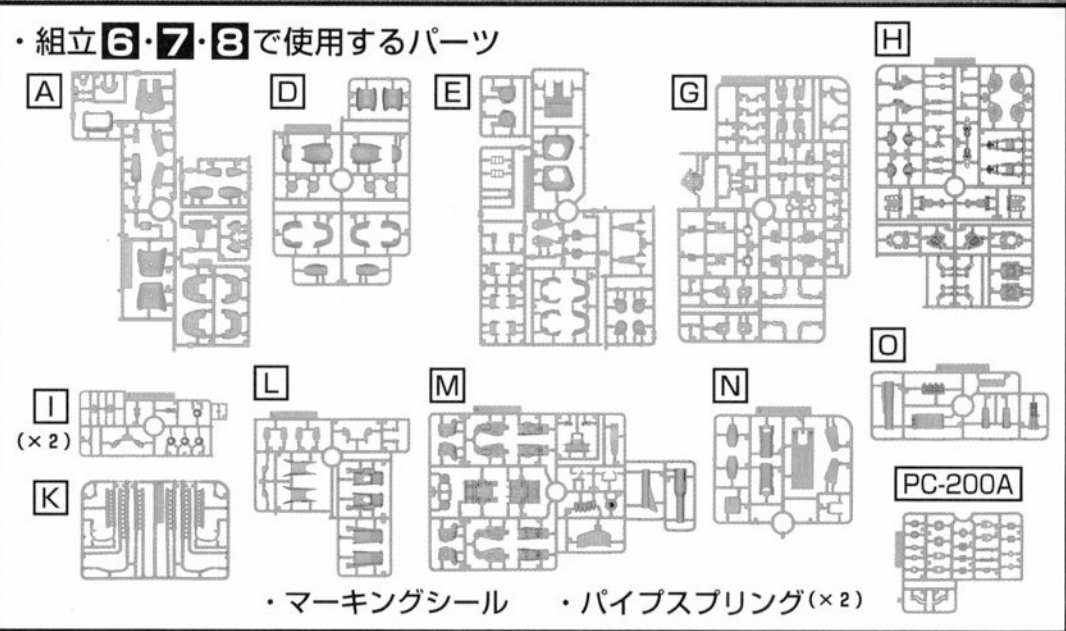
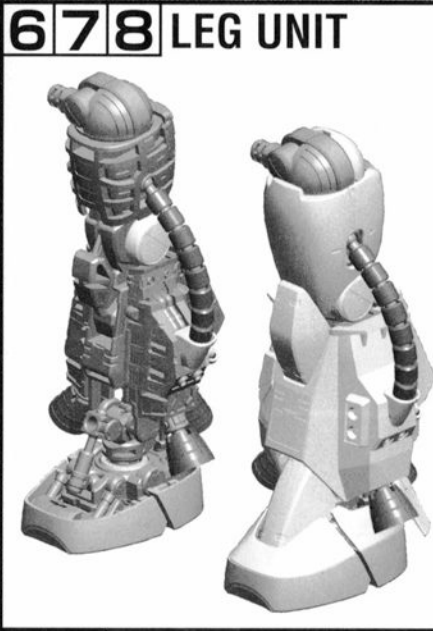
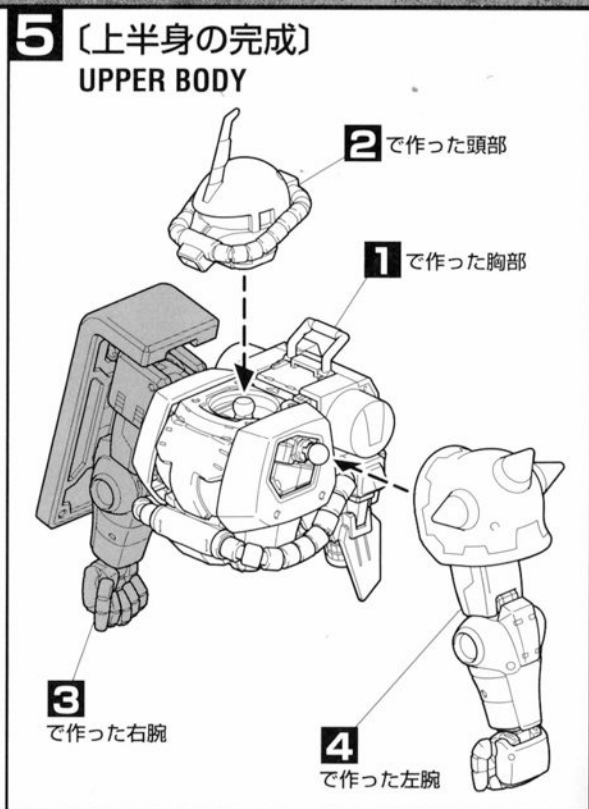
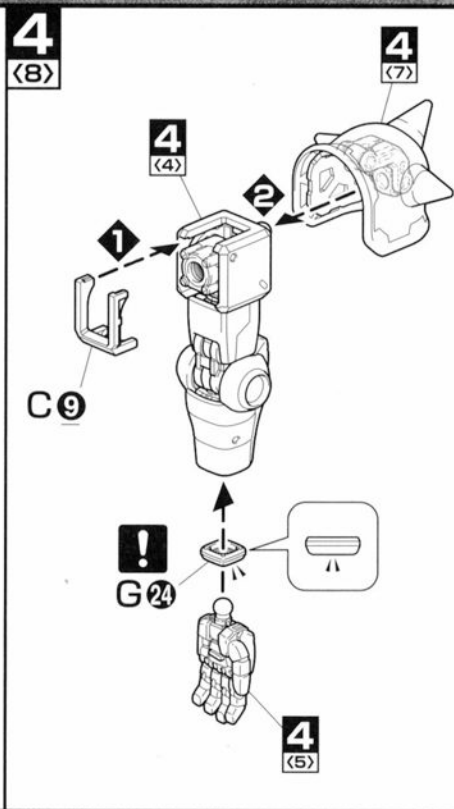
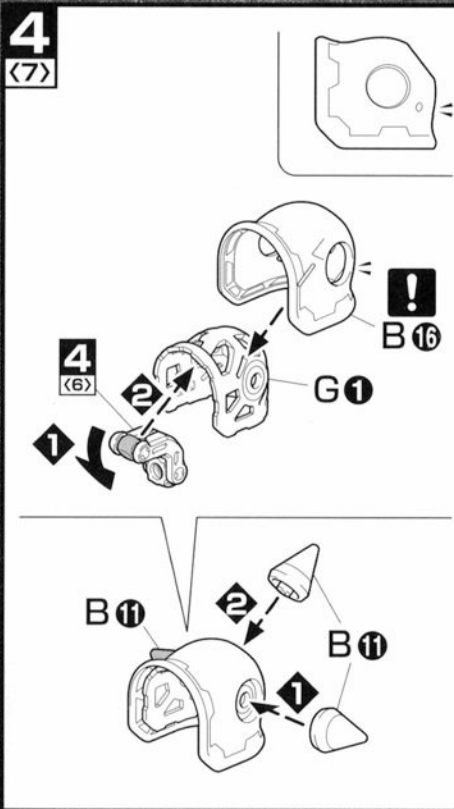


▶ヒート・ホークはサイドアーマーにマウントが可能。



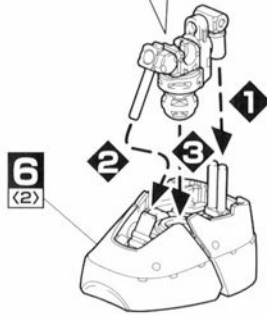
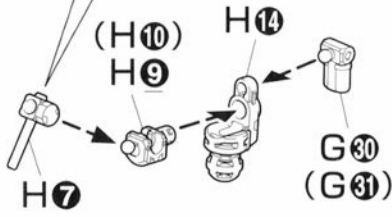
▶ザク・マシンガンのマガジンはリアアーマーにマウントが可能。





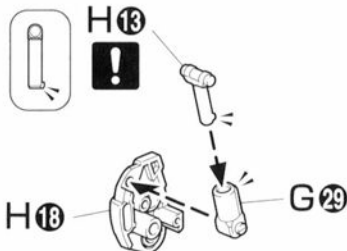
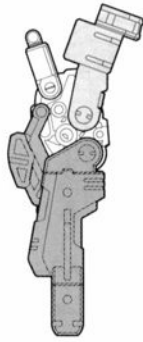
6
(3) **x2**

※H7は、ピンを切り取らないように注意してください。

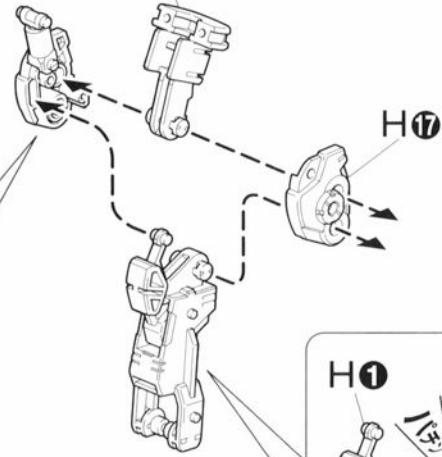


7 [右脚の組立]

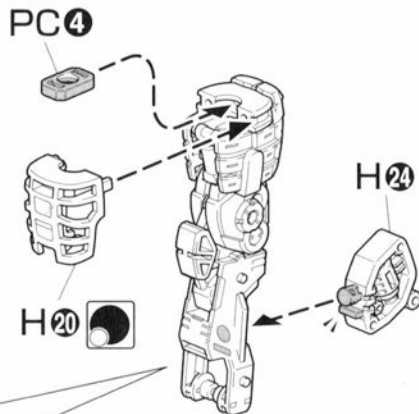
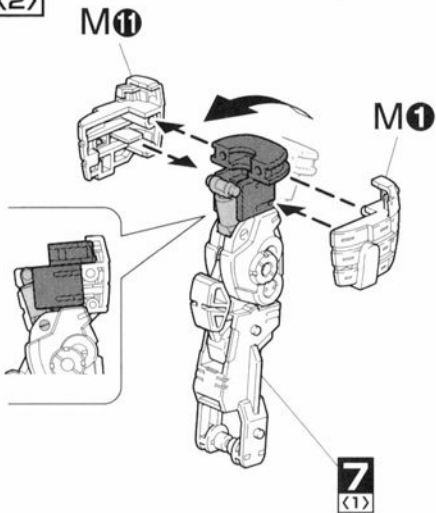
(1) RIGHT LEG



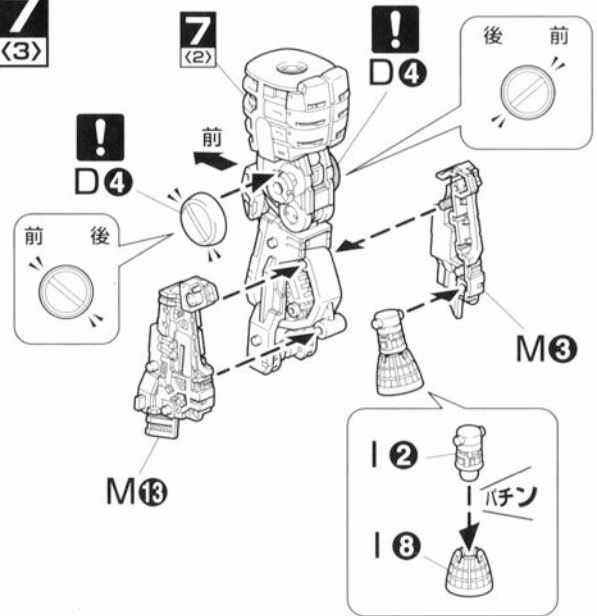
H21



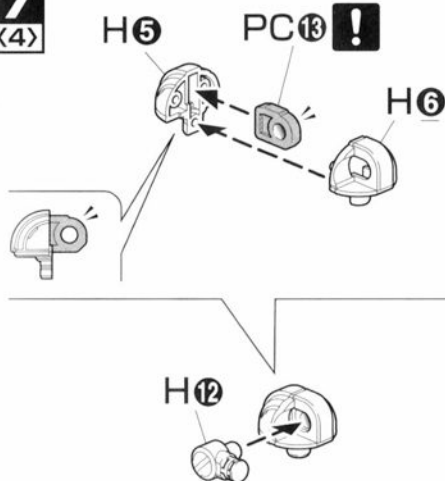
7
(2)



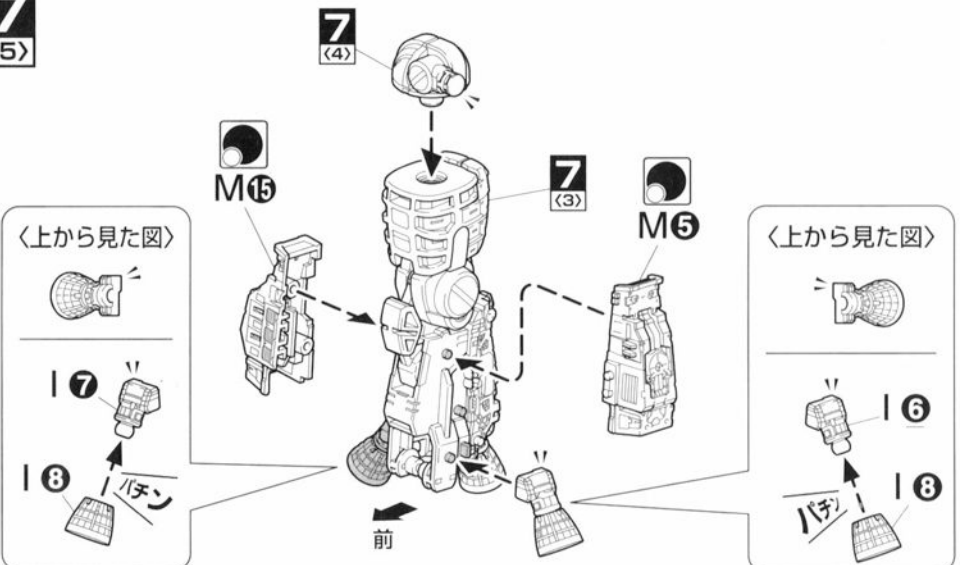
7
(3)



7
(4)



7
(5)

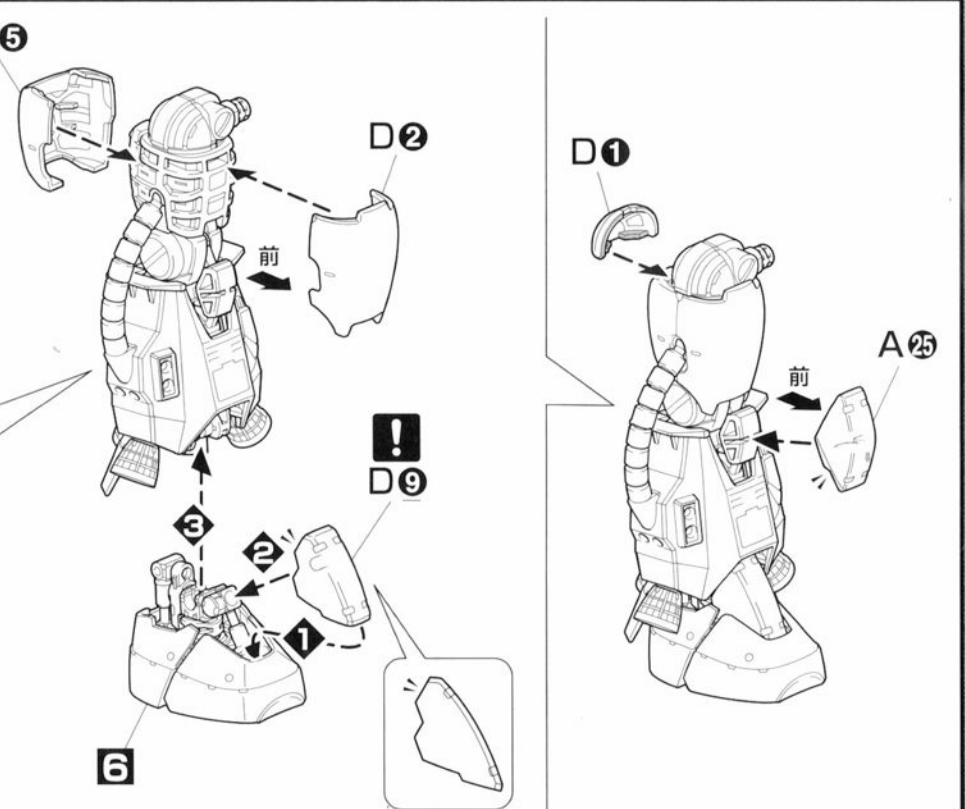
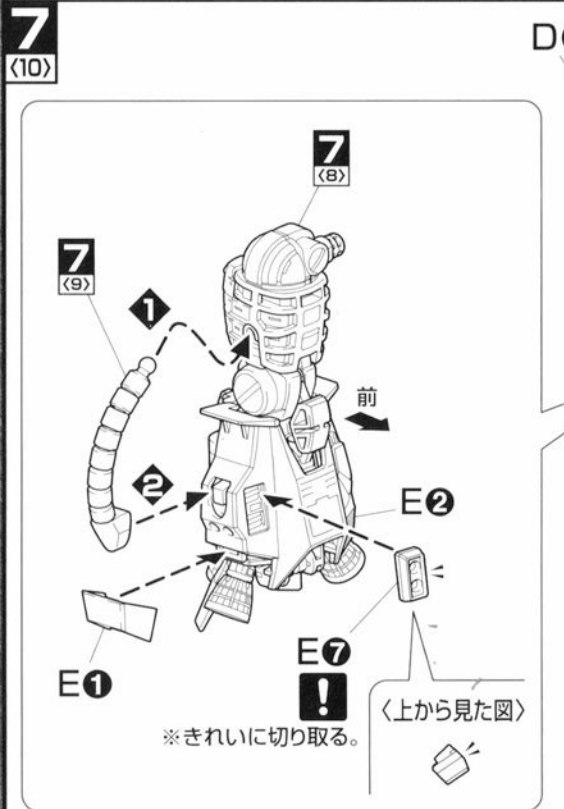
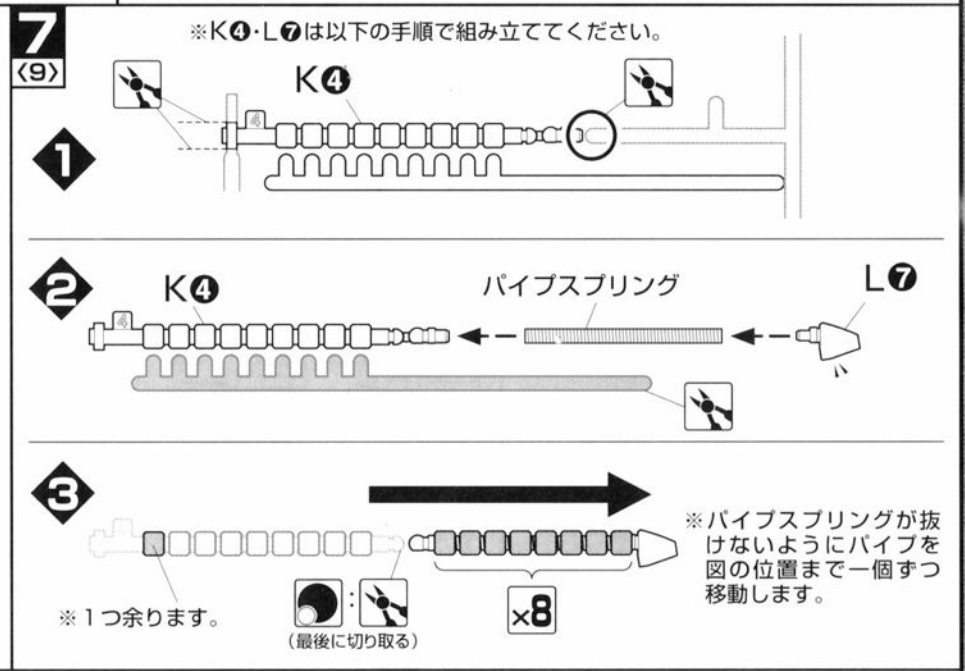
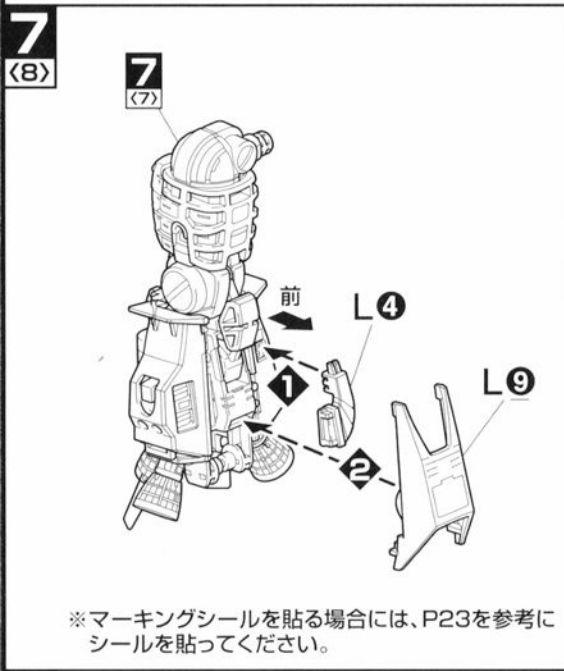
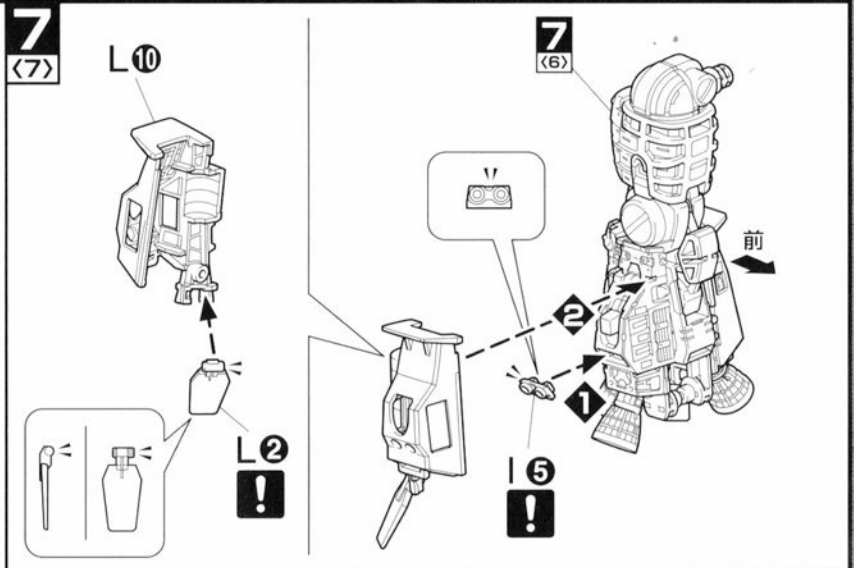
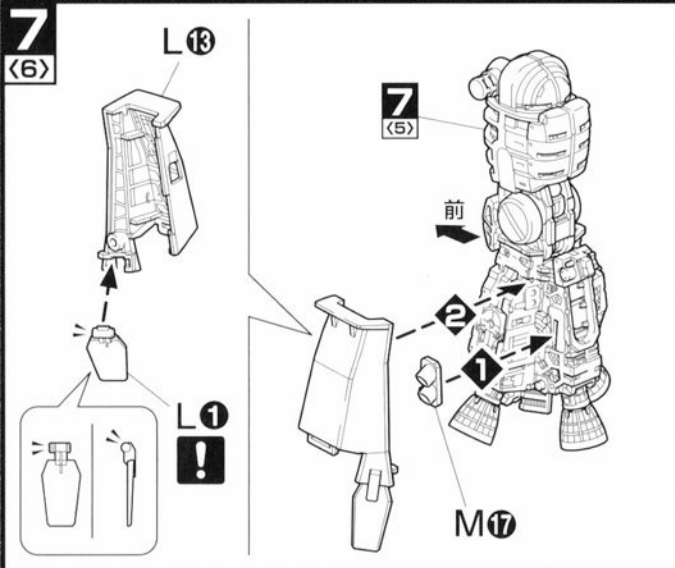


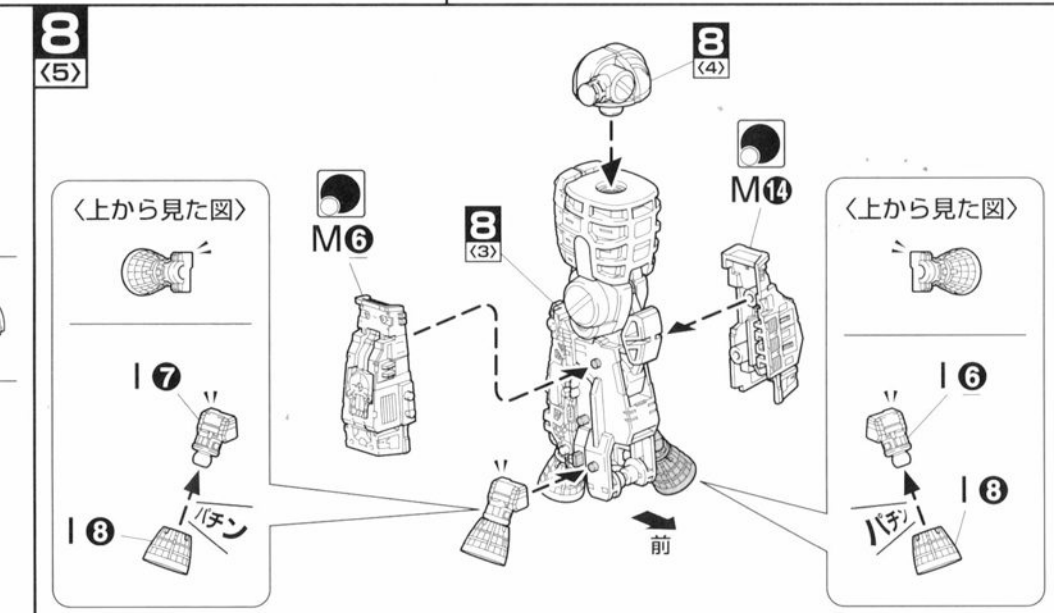
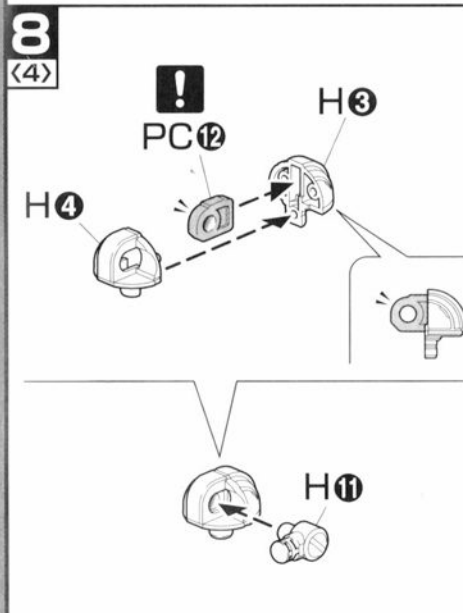
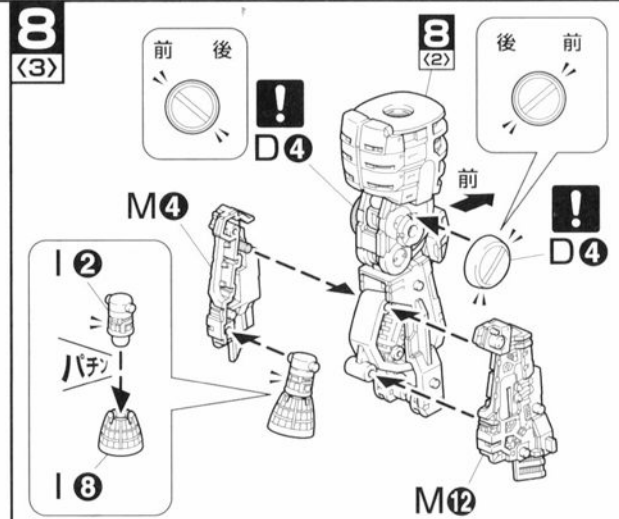
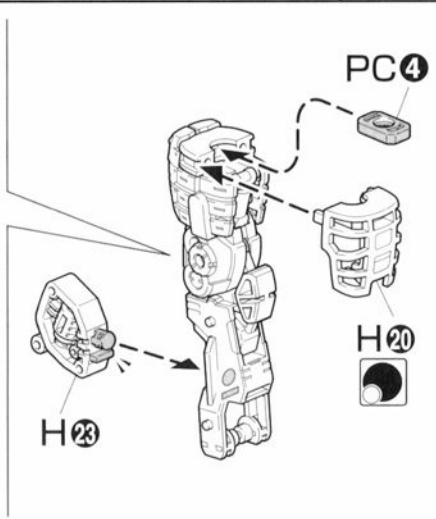
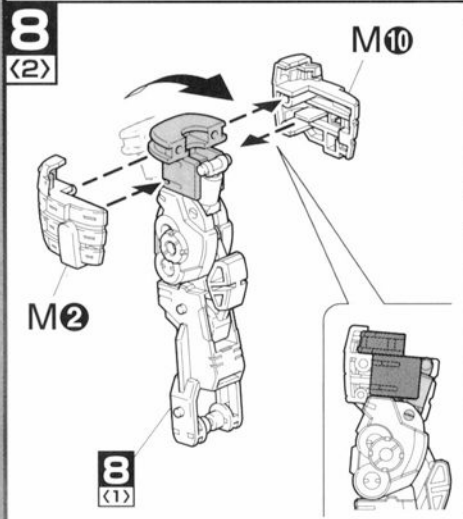
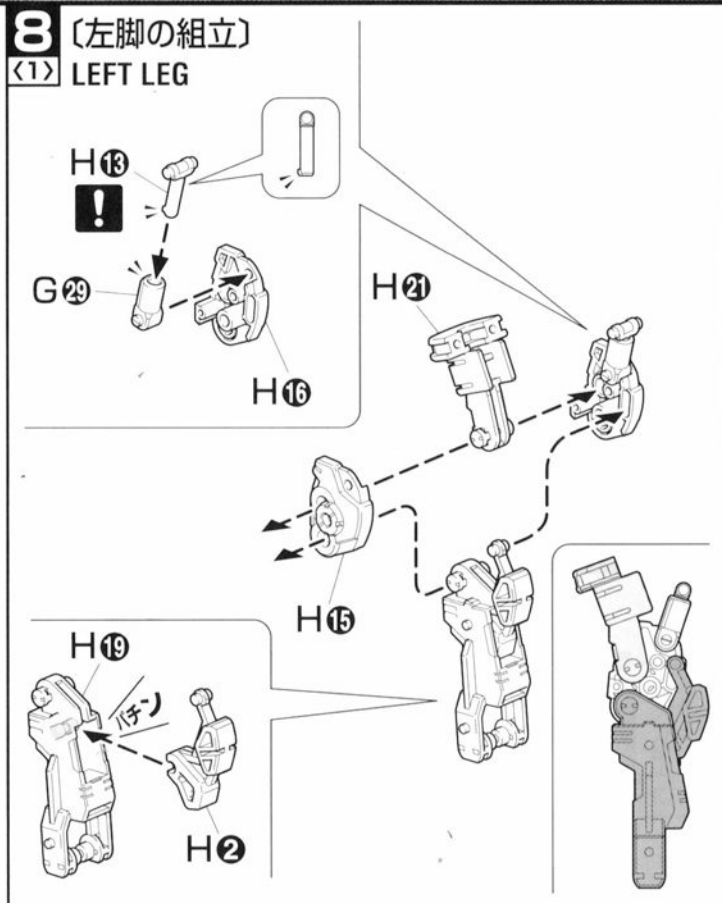
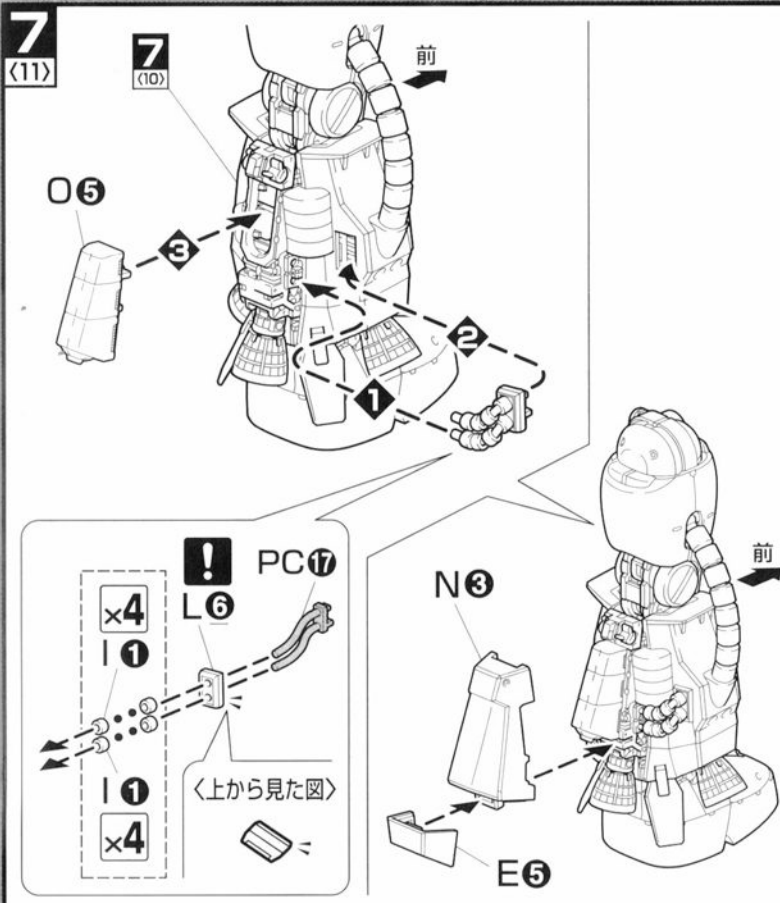
※組立図中の記号説明

! 向きに注意して組み立てる

x2 部品を数値の個数作ります

☐ 後から組み立てる



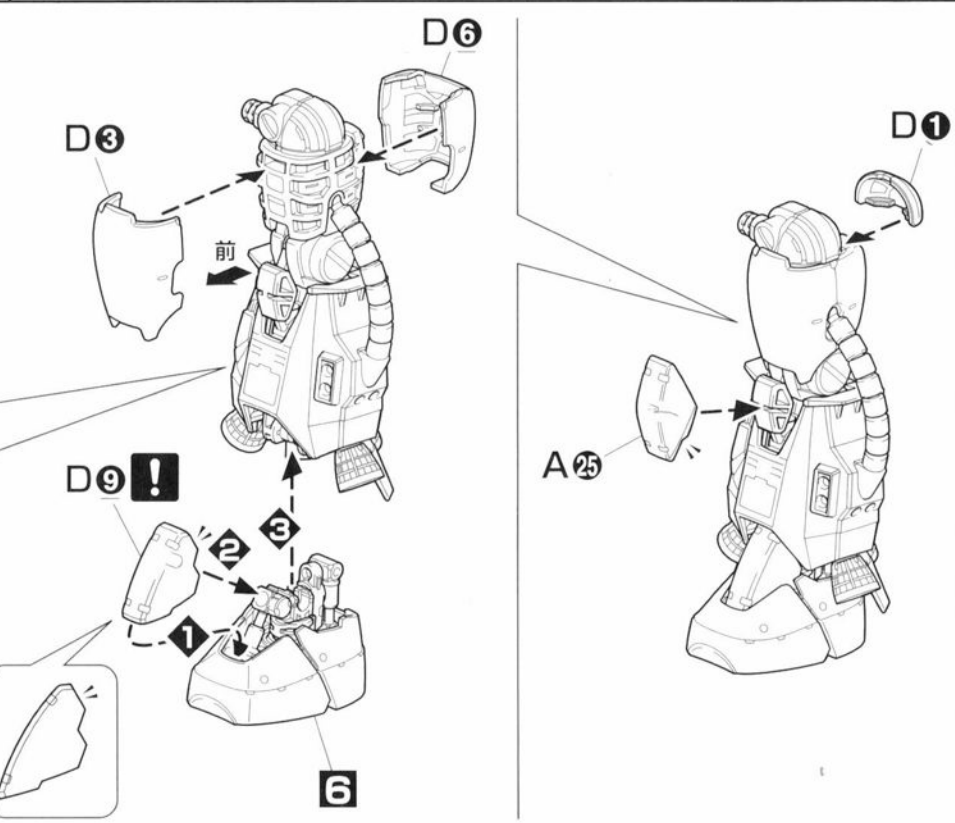
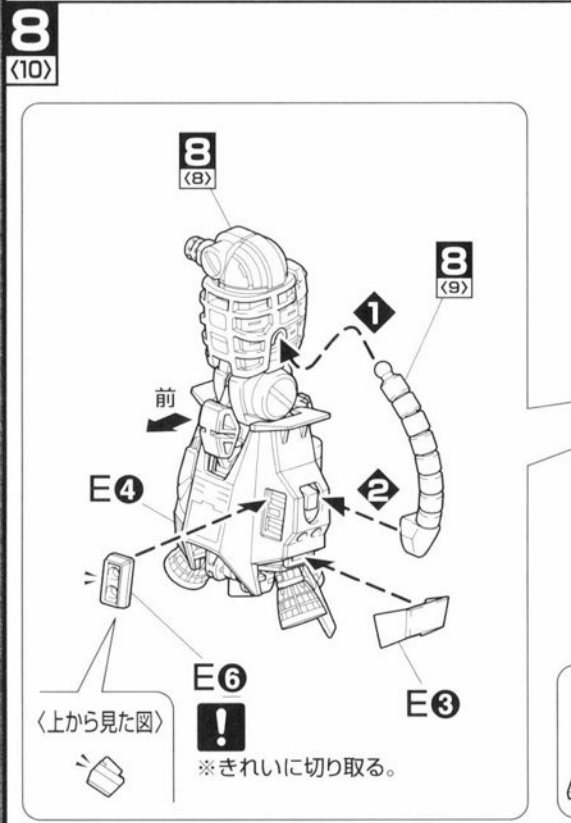
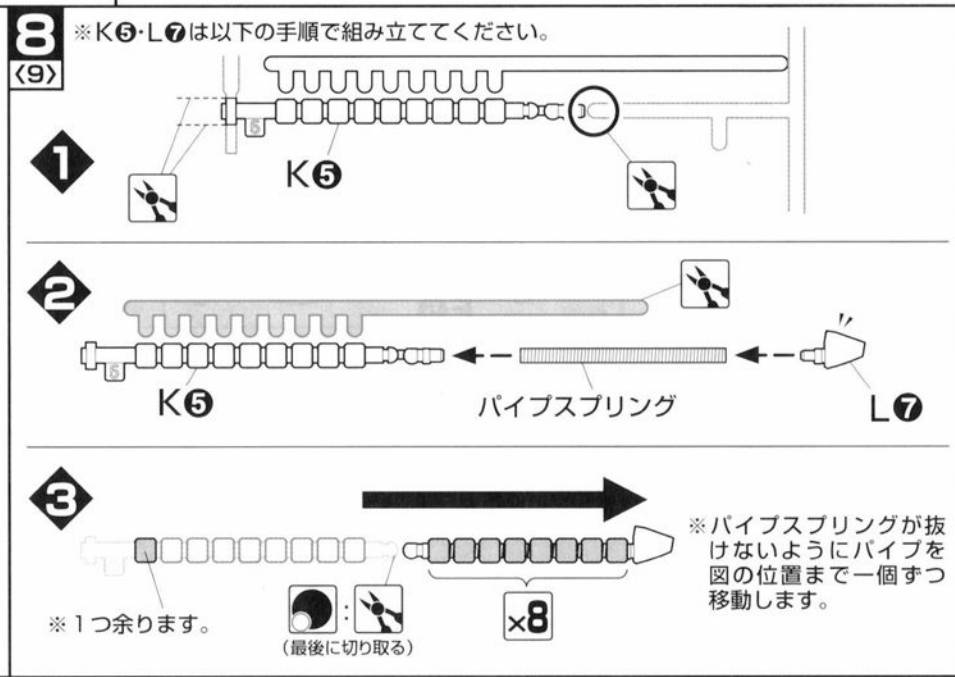
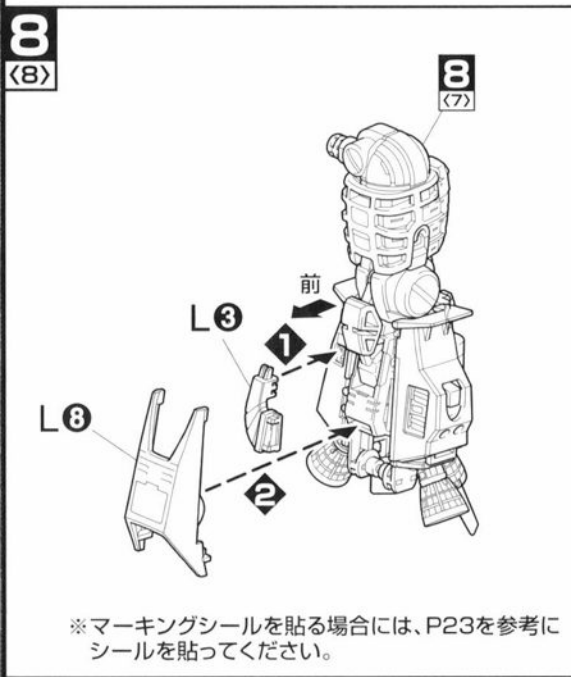
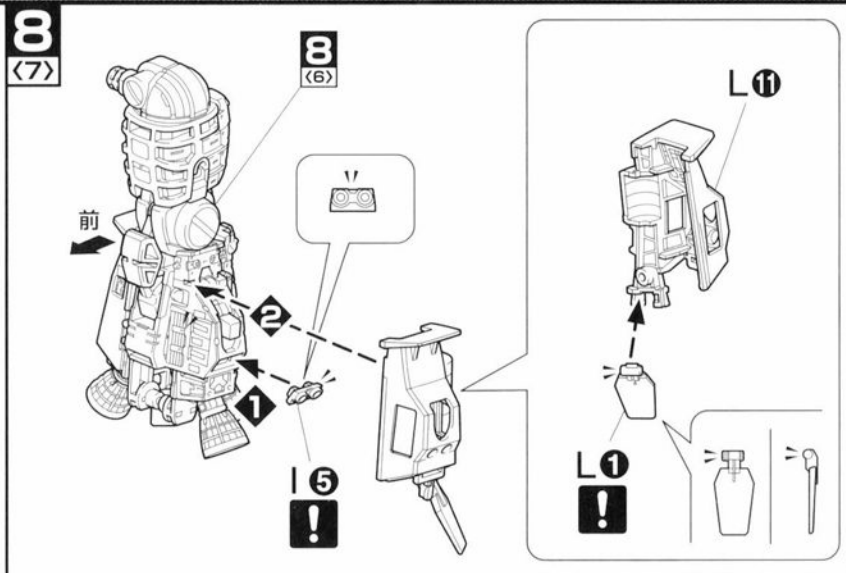
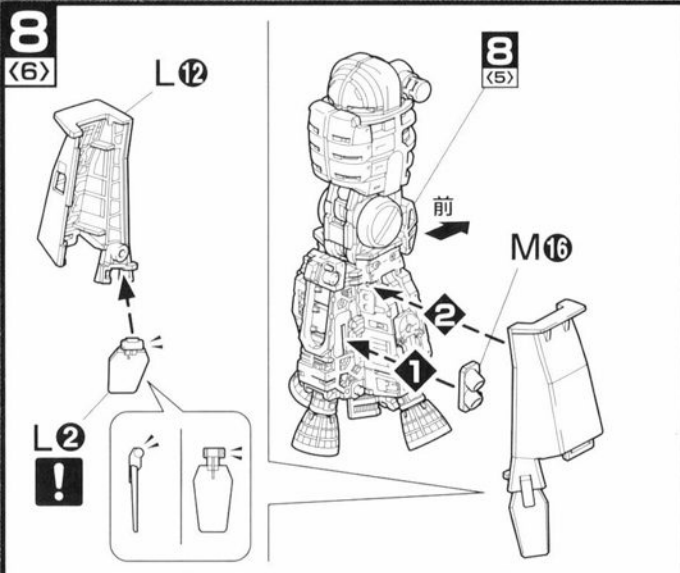


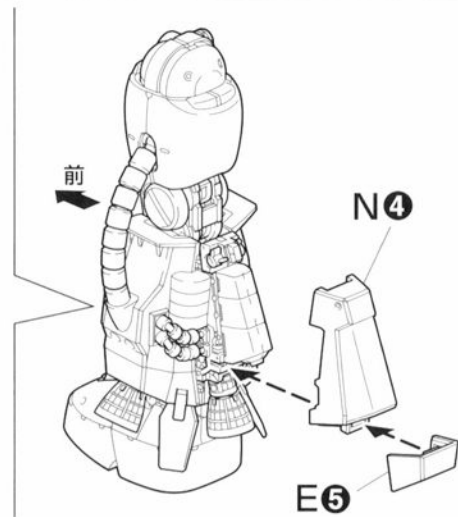
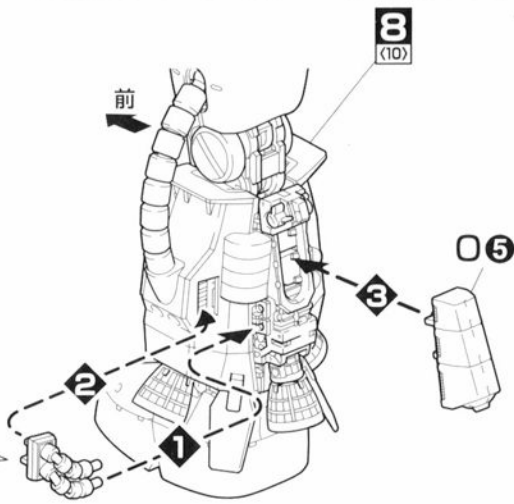
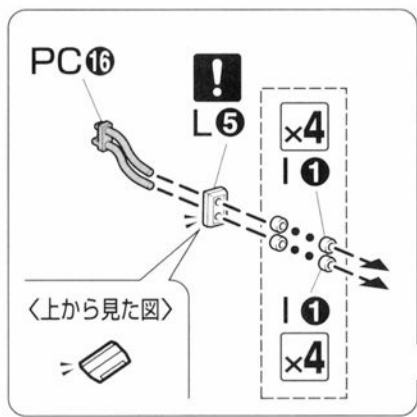
※組立図中の
記号説明

! 向きに注意して
組み立てる

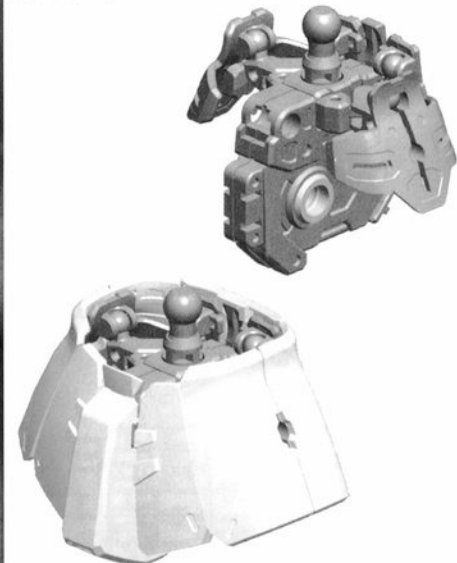
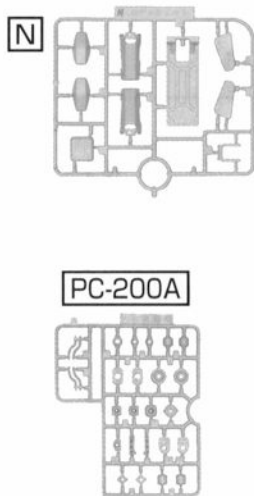
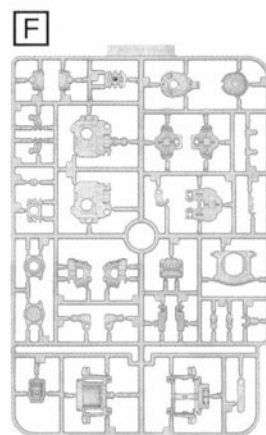
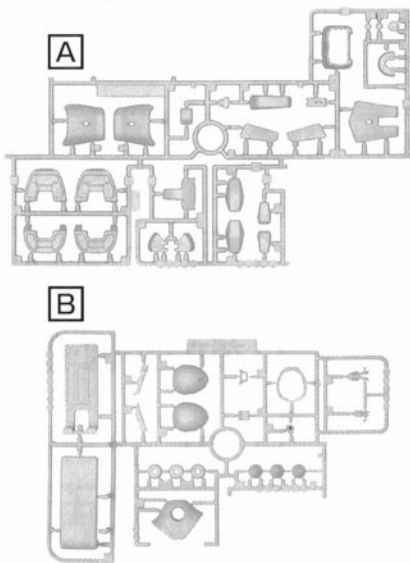
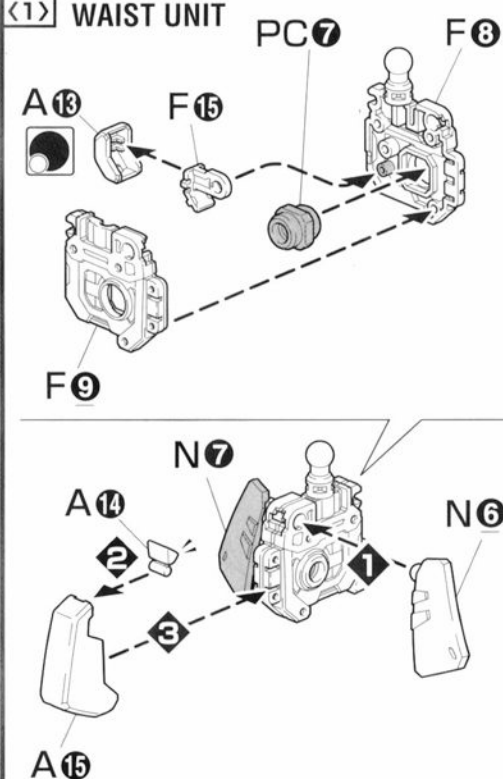
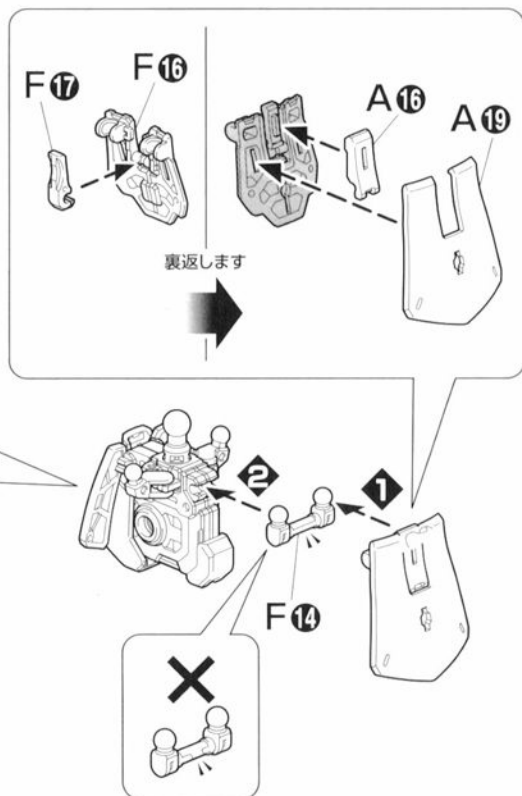
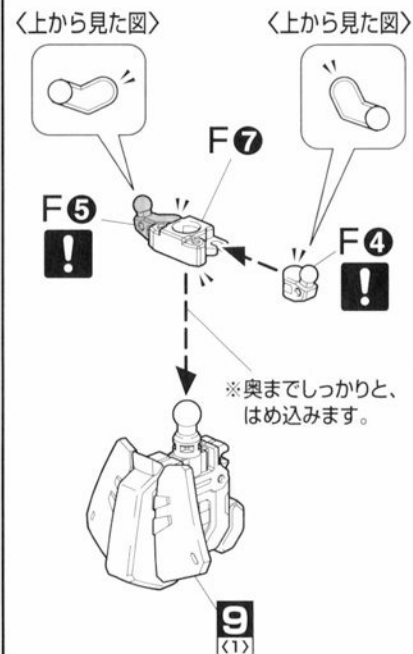
×4 部品を数値の
個数作ります

● 後から
組み立てる



8**(11)****9 10 WAIST UNIT**

・組立9・10で使用するパーツ

**9** (腰部の組立)**(1)** WAIST UNIT**9****(2)**

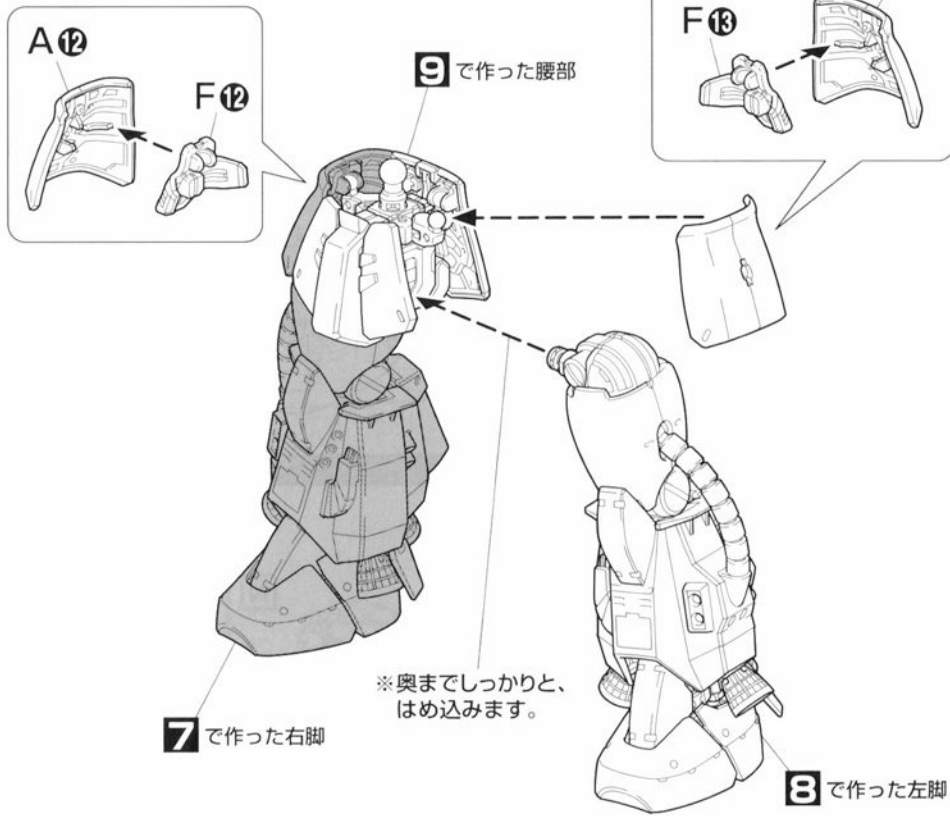
※組立図中の記号説明

● 後から組み立てる

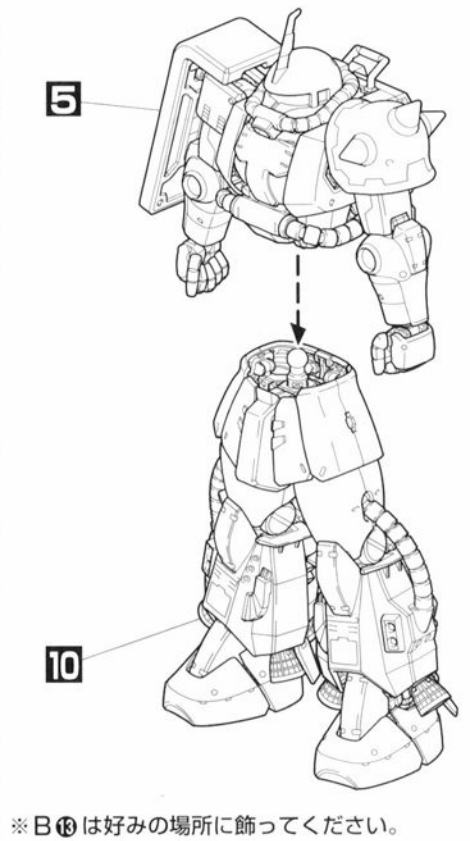
x4 部品を数値の個数作ります

! 向きに注意して組み立てる

10 (下半身の組立)
LOWER BODY



11 (完成) FINAL ASSEMBLE



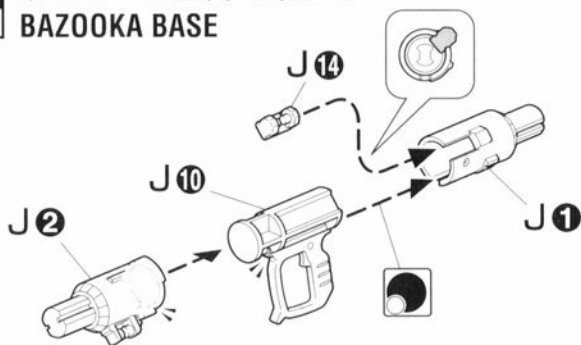
12**13****14****15****16** WEAPONS



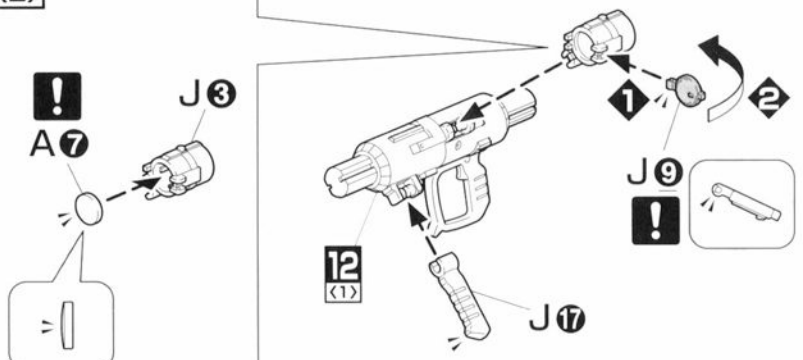
・組立 **12**・**13**・**14**・**15**・**16** で使用するパーツ



12 (バズーカ基部の組立)
(1) BAZOOKA BASE



12 (2)



※組立図中の記号説明

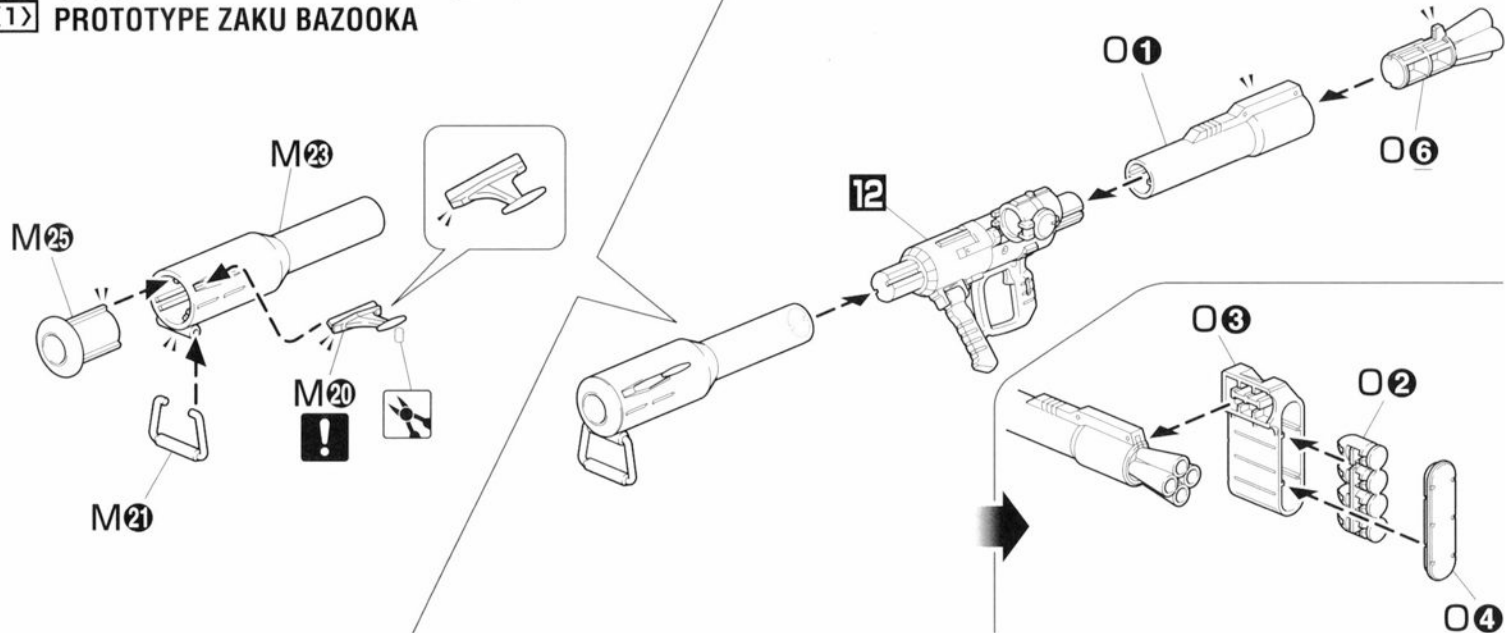
! 向きに注意して組み立てる

☺ 後から組み立てる

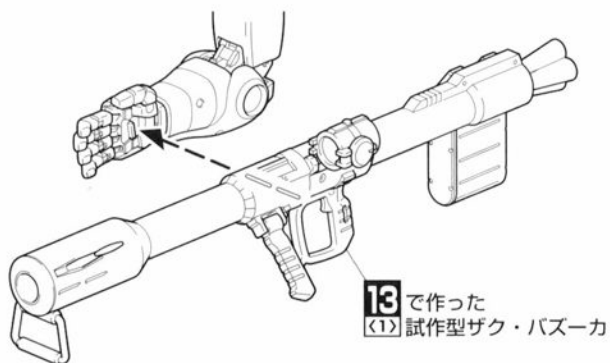
※試作型ザク・バズーカとザク・バズーカはコンバーチブルです。

13 (試作型ザク・バズーカの組立)

13 (1) PROTOTYPE ZAKU BAZOOKA

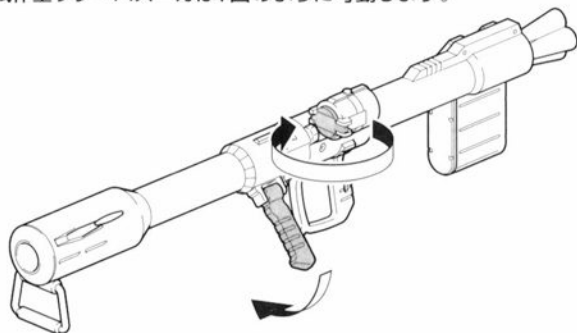


13 (2)



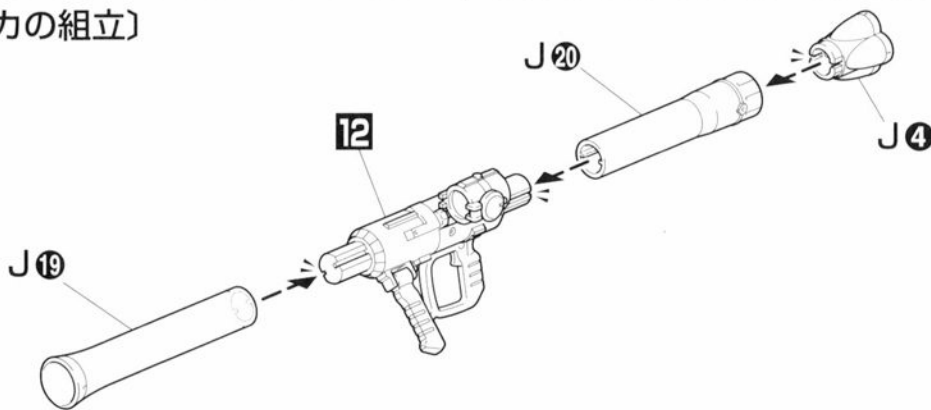
13 (3)

※試作型ザク・バズーカは、図のように可動します。



14 (ザク・バズーカの組立)

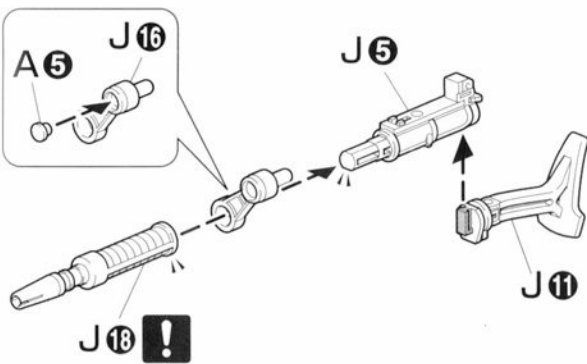
ZAKU BAZOOKA



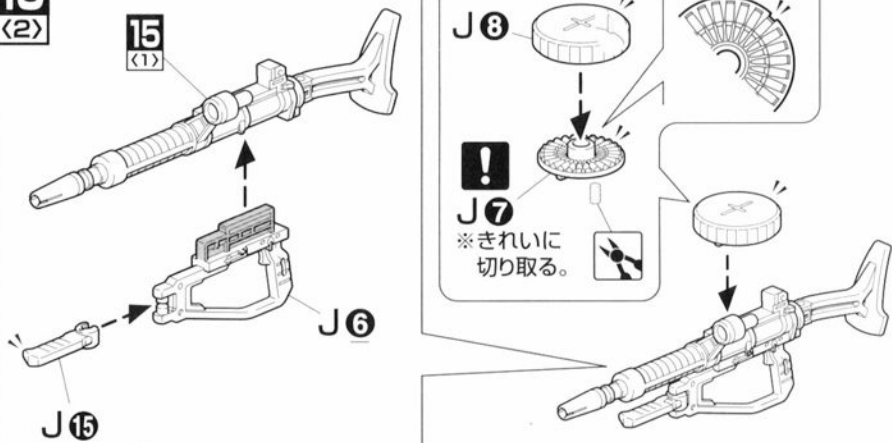
15 (ザク・マシンガンの組立)

ZAKU MACHINE GUN

15 (1)



15 (2)

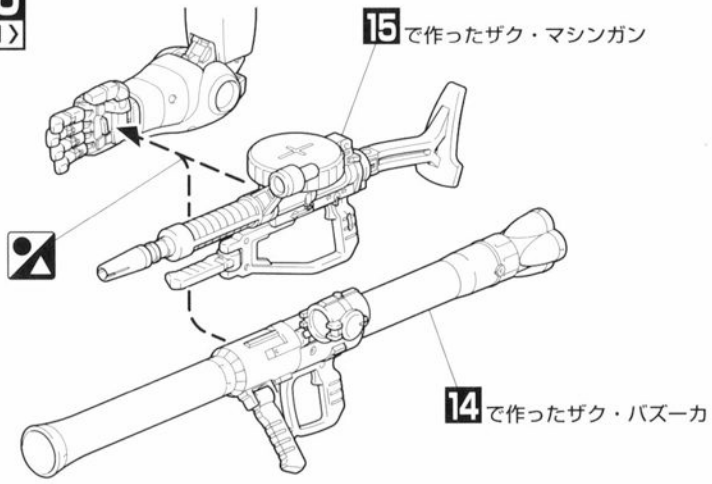


※組立図中の記号説明

! 向きに注意して組み立てる

✂ 切り取る部分

16
(1)



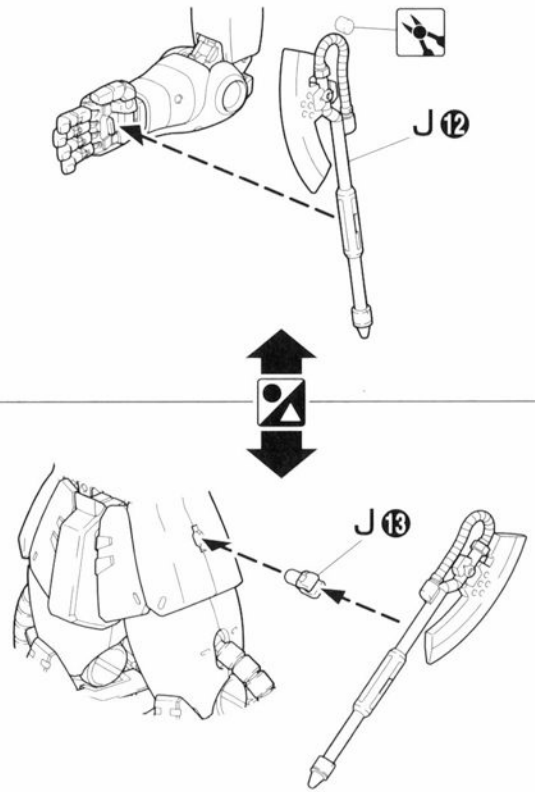
16
(2)

※ザク・バズーカは図のように可動します。

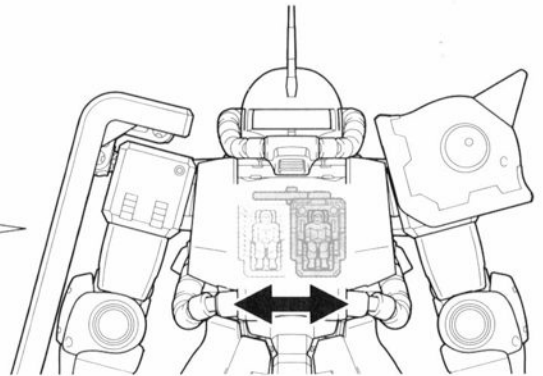


16
(3)

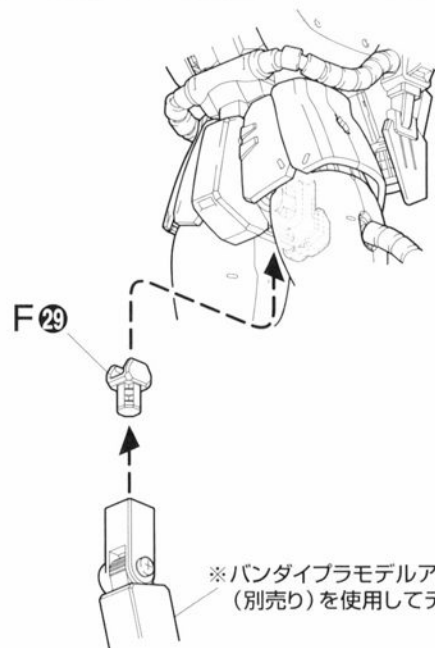
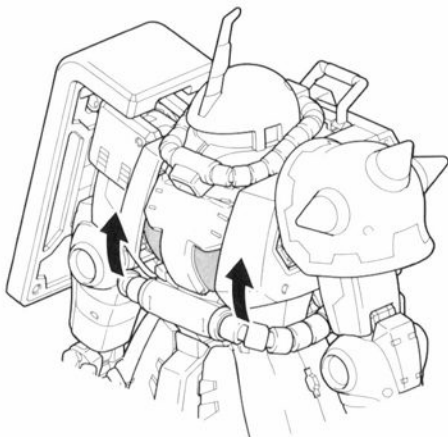
(左手でも持てます)



17 <コクピットの可動>



<コクピットハッチの開け方>



※バンダイプラモデルアクションベース1 (別売り)を使用してディスプレイできます。

Seal

〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカール、水転写式デカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカール及び水転写式デカールは「アルファベット、数字の白文字」で表記してあります。

【例】㊸・・・マーキングシール ㊸・・・ガンダムデカール ①・・・水転写式デカール

【水転写式デカールの貼りかた】

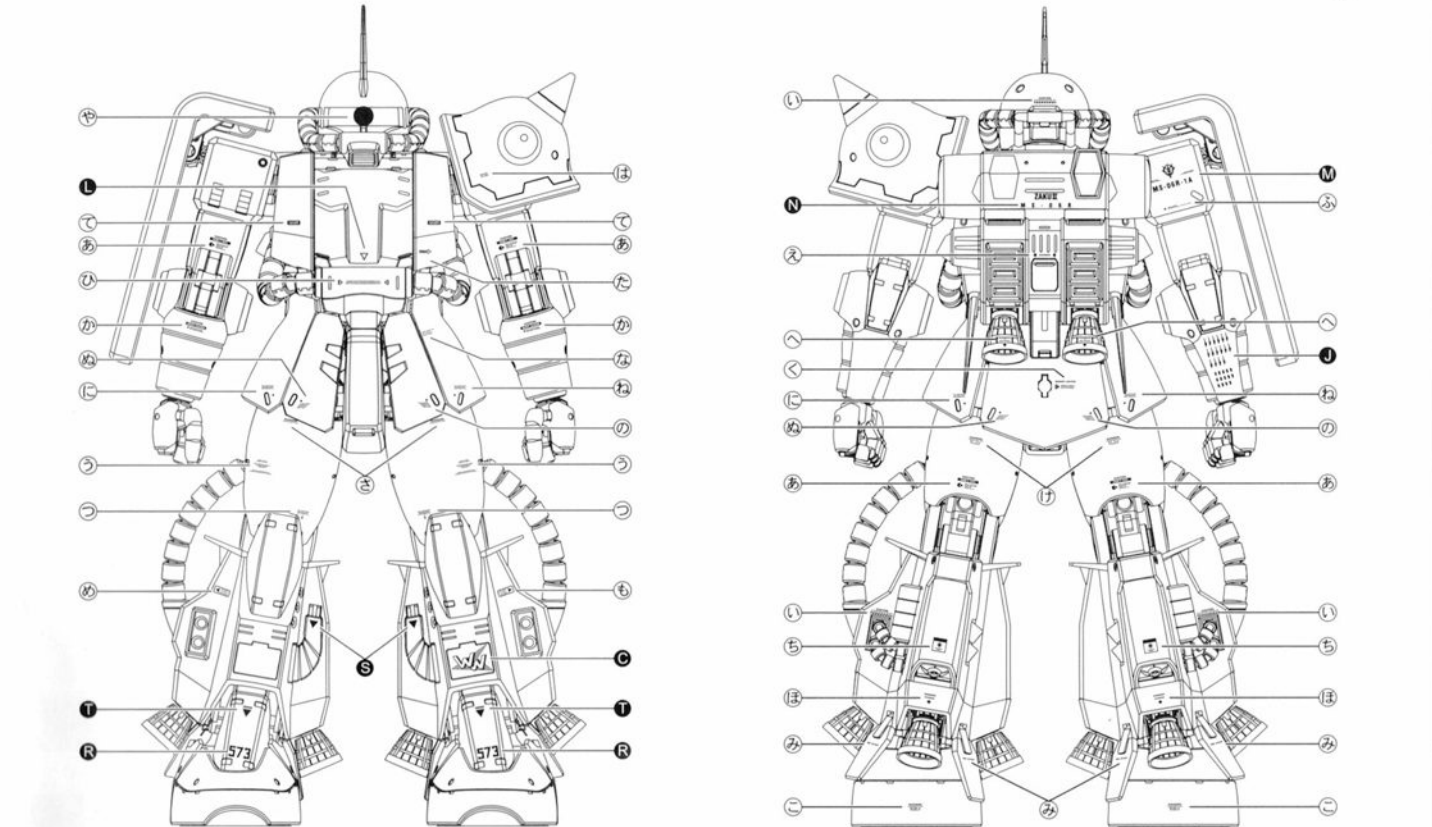
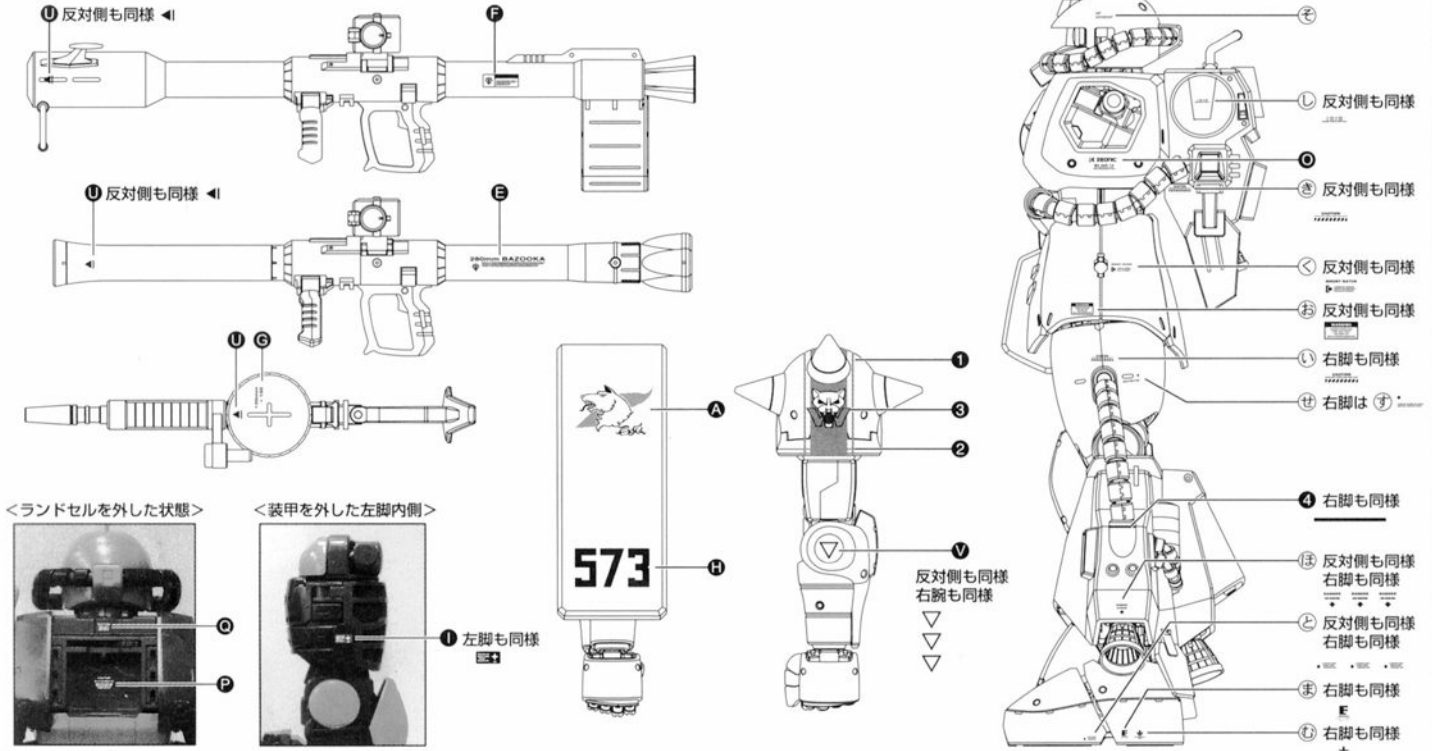
1. 使うデカールを切りとり、ぬるま湯に3秒程度浸し、ピンセットで引き上げます。
2. 台紙からデカールがすべるようになるまで待ち、表を上にしてすべらせて貼ってください。
3. 綿棒などで押して、気泡を取ってください。かわくまでは、手を触れないでください。

【ガンダムデカールの貼りかた】

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。

※水転写式デカールを貼る部分のキットパーツの油分を、あらかじめ中性洗剤などでふきとると一層よく密着します。

※水転写式デカールを貼るための道具（ハサミ、ピンセット、綿棒など）は、別にご用意ください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼って下さい。

このマーキングシール及びガンダムデカール、水転写式デカールはプラモデルオリジナルのもので、貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



ジオン公国軍
宇宙空間戦闘用高機動型モビルスーツ
MS-06R-1A シンマツナガ専用ザク Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-06R-1A ZAKU II

